山梨県内分布調査報告書

（平成 21 年 1 月～ 12 月）

２０１０．３

山 梨 県 教 育 委 員 会

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第266集
山梨県内分布調査報告書（平成21年1月～12月）
二〇一〇・三
山梨県教育委員会

山梨県内分布調査報告書

（平成 21 年 1 月～ 12 月）

２０１０．３

山 梨 県 教 育 委 員 会

序

本書は、平成 21 年 1 月から同年 12 月まで文化庁の補助金を得て実施した、山梨県内分布調査の試掘調査と立会調査並びに現地踏査の結果をまとめたものです。

平成 21 年の調査件数は、試掘調査 18 件、立会調査 18 件、現地踏査 2 件の合計 38 件で、事業主体別では、国 7 件、県 24 件、独立行政法人鉄道建設・運輸施設設備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」と略す）7 件となります。

試掘調査 18 件の事業主体別では、国 6 件、県 8 件、鉄道・運輸機構 4 件（山梨リニア実験線建設事業）で、前年と比較すると 5 件の減少となりました。これは中日本高速道路株式会社による中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査の減少が要因の一つとしてあげられます。

国事業に伴う試掘調査としては、道路建設事業 5 件（都留バイパス建設事業 1 件、中部横断自動車道〔新直轄方式導入エリア〕建設事業 4 件)、建物建設事業 1 件（甲府地方検察庁新営庁舎建設事業）があります。都留市美通遺跡での都留バイパス建設事業に伴う試掘調査では、縄文時代と中世の遺構や遺物が確認され、平成 21 年 5 月から 12 月にかけて本調査を実施しております。中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査では、遺跡の発見には到りませんでしたが、用地未取得地において今後も継続して調査を実施していくこととなっております。甲府城下町遺跡での甲府地方検察庁新営庁舎建設事業では、江戸時代の文化層が確認されたことから事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（発掘調査等）を行う必要があることを確認しました。

県事業に伴う試掘調査としては、道路建設事業 2 件（城東Ⅱ期バイパス建設事業、国道 358 号拡幅事業)、建物建設事業 3 件（県立都留高等学校トレーニングセンター･屋内練習場建設事業、専門学校農業大学校建替事業、県立中央高等学校改築事業)、河川改修事業 2 件（平等川河川改修事業、間門川河川改修事業)、公園整備事業 1 件（風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業）があります。大月遺跡での県立都留高等学校および上の平遺跡での風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業では、文化層が確認されたことから保護層の確保などを行った上で施工することが確認されました。

鉄道・運輸機構による山梨リニア実験線（土捨場造成・工事用道路・資材置き場・変電所）建設事業に伴う試掘調査では、遺跡は確認されませんでしたが、今後も継続して用地未取得地における文化財保護の対応を図っていくことが確認されました。

立会調査 18 件の事業主体別では、国 1 件（御座田三番堤補修事業)、鉄道・運輸機構 1 件（山梨リニア実験線建設事業）をはじめ県事業として建物建設･解体等事業 10 件（甲府駅北口交番解体事業､県庁舎耐震化等事業、県立笛吹高等学校建設事業など)、河川改修事業 1 件（平等川河川改修事業)、公園整備事業 2 件（風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業)、砂防建設事業 1 件（入山沢通常砂防建設事業)、公共下水道敷設事業 2 件（南アルプス市内、富士吉田市内）の 16 件があげられます。このうち、県庁舎整備に伴う立会調査が 6 件におよび甲府城跡における保存活用とともに今後の県庁整備計画を進める上での基礎データが得られております。

現地踏査は、山梨リニア実験線建設事業地を対象に実施し、いずれも遺跡の存在が確認されず、事業者に工事を進めても差し支えない旨を報告しております。

本報告書が文化財保護と開発事業との円滑な調整に役立つとともに、多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いであります。

未筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査にあたられた方々に厚く御礼申し上げます。

2010 年 3 月

山梨県埋蔵文化財センター
所 長　小 野 正 文

例　言

1　本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成 21 年 1 月から同年 12 月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘調査と立会調査並びに現地調査の結果をまとめた報告書である。
2　本報告書は、国・県・中日本高速道路株式会社の道路建設・建物建設事業や鉄道・運輸機構のリニア実験線建設事業などの試掘調査、県の砂防建設・建物建設・公共下水道事業などの立会調査、鉄道・運輸機構のリニア実験線建設事業の踏査の結果をまとめた報告書である。
3　本報告書における試掘・立会・踏査は、山梨県埋蔵文化財センターが実施し、各事業の調査担当者については、本文に明記した。なお、本文については、各事業結果報告に基づき保坂和博が編集した。
4　試掘・立会・踏査における調査状況写真及び記録図面などについては、各事業調査担当者が行い、その結果に基づき本報告書の執筆・編集などは、保坂が行った。
5　本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。なお、試掘調査の結果、本発掘調査にいたる場合については、遺物、記録図面、写真などを調査資料として当該担当者に引き継ぎを行った。
6　試掘調査作業員並びに整理作業員は次のとおりである。(敬称略・順序不同)
　都留バイパス建設事業（望月明、望月孝次、小林としみ､)、中部横断自動車道建設事業（南部区間：望月孝次、河野逸廣、今津武男、望月明)、山梨リニア実験線（境川土捨場造成：田中一秋、池谷千代子、山﨑けい子、変電所:奥村澄江、土屋常子、手塚理恵)、国道 358 号（甲府精進湖線）拡幅事業（千野富子、池谷千代子、石水千恵子、前田みつ子)、整理作業員（垣内律子）
7　本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。(順不同)
　国土交通省甲府河川国道事務所・富士川上流出張所、甲府地方検察庁、独立行政法人鉄道建設・運輸施設設備支援機構、中日本高速道路株式会社、山梨県警察本部、山梨県総務部管財課、山梨県企画部リニア交通課、山梨県土整備部道路整備課、中北建設事務所、峡東建設事務所、峡南建設事務所、富士・東部建設事務所、中部横断自動車道用地事務所、山梨県教育委員会学校施設課、専門学校農業大学校、山梨県立中央高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立石和高等学校、甲府市教育委員会、笛吹市教育委員会、南アルプス市教育委員会、身延町教育委員会、南部町教育委員会、上野原市教育委員会、富士吉田市教育委員会

凡　例

1　各事業の位置図は、1/25,000 のスケールを基本としている。
2　図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
3　実測図及び写真は主要なものに限った。

本 文 目 次

序
例言
目次

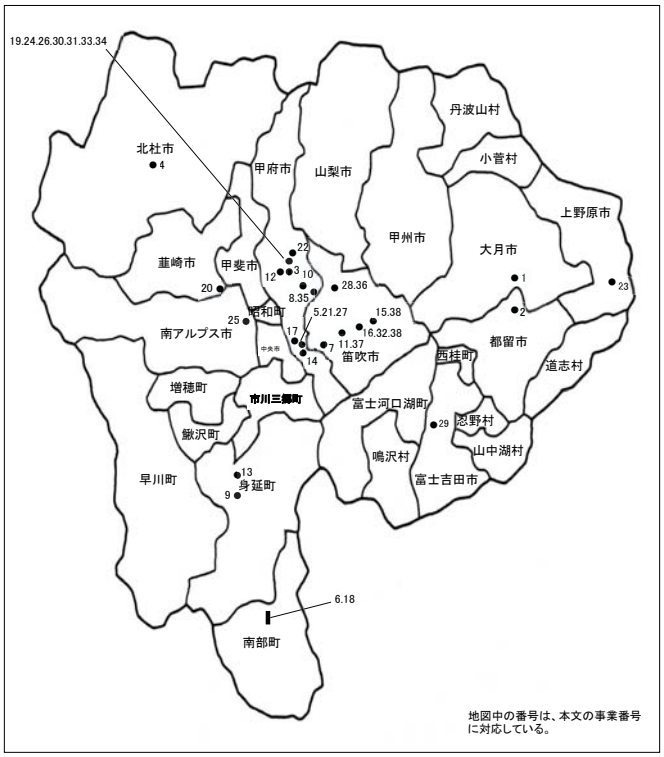
Ⅰ　試掘調査
県内分布調査全体事業位置図 …… 1
1　県立都留高等学校トレーニングセンター・屋内練習場建設事業 …… 2
2　都留バイパス建設事業 …… 3
3　甲府地方検察庁新営庁舎建設事業 …… 5
4　専門学校農業大学校建替事業 …… 6
5　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業 …… 7
6　中部横断自動車道（南部区間）建設事業 …… 8
7　山梨リニア実験線（境川土捨場造成）建設事業 …… 9
8　平等川基幹河川改修事業 …… 11
9　中部横断自動車道（醍醐トンネル）建設事業 …… 12
10　城東 11 期バイパス建設事業 …… 13
11　山梨リニア実験線（変電所）建設事業 …… 14
12　県立中央高等学校改築事業 …… 15
13　中部横断自動車道建設事業 …… 16
14　国道 358 号（甲府精進湖線）拡幅事業 …… 17
15　山梨リニア実験線（資材置き場）建設事業 …… 18
16　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業 …… 19
17　間門川河川改修事業 …… 20
18　中部横断自動車道（南部区間）建設事業 …… 21

Ⅱ　立会調査
19　ガス管リフレッシュ事業 …… 24
20　御座田三番堤補修事業 …… 25
21　風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業 …… 26
22　甲府駅北口交番解体事業 …… 27
23　入山沢通常砂防建設事業 …… 28
24　県庁構内水道管敷設事業 …… 29
25　流域下水道敷設事業 …… 30
26　県庁舎耐震化等事業 …… 31
27　風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業 …… 32
28　県立笛吹高等学校給水管敷設事業 …… 33
29　流域下水道敷設事業 …… 34
30　県庁構内 ATM 基礎撤去事業 …… 35
31　県庁舎耐震化等（地中電線管撤去）事業 …… 36
32　山梨リニア実験線（笛吹市道 512 号改良）建設事業 …… 37
33　県庁構内電気高圧供給管新設事業 …… 38
34　県庁周辺電気高圧供給管撤去ならびに新設事業 …… 39
35　平等川基幹河川改修事業 …… 40
36　県立笛吹高等学校建設事業 …… 41

Ⅲ　踏査
37　山梨リニア実験線建設事業 …… 42
38　山梨リニア実験線建設事業 …… 43

県内遺跡分布調査発掘事業一覧

	事業名 （ 所在地 ）	調査面積（㎡）	調査対象面積（㎡）	調査期間
No.	試掘調査			
1	県立都留高等学校トレーニングセンター・屋内練習場建設事業〈大月市大月 2 － 11 － 20 地内〉	約 20㎡	約 340.77㎡	平成 21 年 1 月 16 日
2	都留バイパス建設事業〈都留市井倉字美通 285 外地内〉	約 360㎡	約 2,900㎡	平成 21 年 1 月 21 日～ 27 日
3	甲府地方検察庁新営庁舎建設事業〈甲府市中央 1 － 11 外地内〉	約 55㎡	約 2,052㎡	平成 21 年 1 月 28 日～ 29 日、2 月 2 日
4	専門学校農業大学校建替事業〈北杜市長坂町長坂上条 3251 外地内〉	約 38㎡	約 1,375㎡	平成 21 年 2 月 18 日
5	風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業〈甲府市下向山地内〉	約 5㎡	約 31㎡	平成 21 年 6 月 1 日
6	中部横断自動車道（南部区間）建設事業〈南巨摩郡南部町本郷字上大神 366 外地内〉	約 60㎡	約 600㎡	平成 21 年 6 月 3 日
7	山梨リニア実験線（境川土捨場造成）事業〈笛吹市境川町藤岱字御所山 4073 外地内〉	約 265㎡	約 600㎡	平成 21 年 6 月 8 日～ 9 日
8	平等川基幹河川改修事業〈甲府市向町 655 － 4 外地内〉	約 19.8㎡	約 176㎡	平成 21 年 6 月 12 日
9	中部横断自動車道（醍醐トンネル）建設事業〈南巨摩郡身延町大字一色字和田 5324 外地〉	約 91.8㎡	約 9,323.93㎡	平成 21 年 7 月 1 日、3 日
10	城東Ⅱ期バイパス建設事業〈甲府市砂田町 5 － 3 外地内〉	約 129.6㎡	約 3,000㎡	平成 21 年 7 月 7 日～ 8 日
11	山梨リニア実験線（変電所）建設事業〈笛吹市八代町米倉 2085 地内〉	約 345㎡	約 6,146㎡	平成 21 年 7 月 9 日～ 10 日、13 日～ 15 日
12	県立中央高等学校改築事業〈甲府市飯田 5 － 6 － 2 外地内〉	約 24㎡	約 13,245㎡	平成 21 年 8 月 3 日
13	中部横断道自動車道建設事業〈南巨摩郡身延町大字下田原字広反歩 1539 － 1 外地〉	約 37㎡	約 1,008㎡	平成 21 年 8 月 6 日
14	国道 358 号（甲府精進湖線）拡幅事業〈甲府市中畑町字中町 253 － 1 外地内〉	約 58㎡	約 990㎡	平成 21 年 9 月 14 日～ 16 日
15	山梨リニア実験線（資材置場）建設事業〈笛吹市御坂町上黒駒字六ッ長 3422 － 1 外地内〉	約 18㎡	約 562㎡	平成 21 年 9 月 17 日
16	山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業〈笛吹市御坂町竹居字太鼓畑 3185 － 1 外地内〉	約 10㎡	約 217.9㎡	平成 21 年 10 月 13 日～ 14 日
17	間門川河川改修事業〈甲府市下曽根町字一丁田 1526 － 1 外地内〉	約 277㎡	約 4,556.94㎡	平成 21 年 11 月 10 日～ 12 日
18	中部横断道自動車道（南部区間）建設事業〈南巨摩郡南部町本郷字東 429 地内〉	約 301.6㎡	約 8,000㎡	平成 21 年 12 月 21 日～ 22 日
No.	立会調査			
19	ガス管リフレッシュ事業〈甲府市丸の内 1 丁目地内〉	約 359㎡	約 359㎡	平成 21 年 1 月 16 日～ 26 日、2 月 10 日
20	御座田三番堤補修事業〈韮崎市龍岡町地内〉	約 43㎡	約 3,370㎡	平成 21 年 1 月 20 日
21	風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業〈甲府市下曽根町字岩清水 899 外地内〉	約 15㎡	約 15㎡	平成 21 年 1 月 23 日
22	甲府駅北口交番解体事業〈甲府市北口 2 丁目地内〉	約 15㎡	約 15㎡	平成 21 年 2 月 4 日、16 日
23	入山沢通常砂防建設事業〈上野原市秋山字金山地内〉	約 11㎡	約 11㎡	平成 21 年 4 月 22 日、5 月 20 日
24	県庁構内水道管敷設事業〈甲府市丸の内 1 丁目地内〉	約 7.6㎡	約 7.6㎡	平成 21 年 4 月 25 日
25	流域下水道敷設事業〈南アルプス市鏡中條地内〉	約 10.5㎡	約 10.5㎡	平成 21 年 6 月 14 日
26	県庁舎耐震化等事業〈甲府市丸の内 1 － 6 － 1 外地内〉	約 0.22㎡	約 0.22㎡	平成 21 年 6 月 12 日、7 月 6 日～ 7 日
27	風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業〈甲府市下向山地内〉	約 4㎡	約 31㎡	平成 21 年 6 月 22 日
28	県立笛吹高等学校吸水管敷設事業〈笛吹市石和町市部 3 地内〉	約 4㎡	約 4㎡	平成 21 年 6 月 26 日
29	流域下水道敷設事業〈富士吉田市新倉地内〉	約 24㎡	約 24㎡	平成 21 年 6 月 29 日
30	県庁構内 ATM 基礎撤去事業〈甲府市丸の内 1 丁目地内〉	約 25㎡	約 25㎡	平成 21 年 7 月 19 日
31	県庁舎耐震化等（地中電線管撤去）事業〈甲府市丸の内 1 － 6 － 1 地内〉	約 27.2㎡	約 27.2㎡	平成 21 年 7 月 22 日～ 27 日
32	山梨リニア実験線（笛吹市道 512 号改良）建設事業〈笛吹市御坂町竹居 5025 外地内〉	約 150㎡	約 750㎡	平成 21 年 9 月 14 日
33	県庁構内電気高圧供給管新設事業〈甲府市丸の内 1 丁目地内〉	約 2㎡	約 2㎡	平成 21 年 10 月 7 日
34	県庁周辺電気高圧供給管撤去ならびに新設事業〈甲府市丸の内 1 丁目地内〉	約 15㎡	約 15㎡	平成 21 年 10 月 19 日～ 22 日
35	平等川基幹河川改修事業〈甲府市七沢町・西高橋町地内〉	約 16㎡	約 16㎡	平成 21 年 11 月 12 日
36	県立笛吹高等学校建設事業〈笛吹市石和町市部 3 地内〉	約 970㎡	約 230㎡	平成 21 年 11 月 12 日
No.	踏査			
37	山梨リニア実験線建設事業〈笛吹市八代町米倉地内〉			平成 21 年 7 月 29 日
38	山梨リニア実験線建設事業〈笛吹市御坂町上黒駒 6205 － 16 外地内〉			平成 21 年 10 月 6 日



平成 21 年県内分布調査全体事業位置図

1　都留高等学校トレーニングセンター・屋内練習場建設事業　試掘《大月遺跡》

所在地	大月市大月 2-11-20 地内	調査期間	平成 21 年 1 月 16 日
担当者	保坂和博	調査面積	20㎡

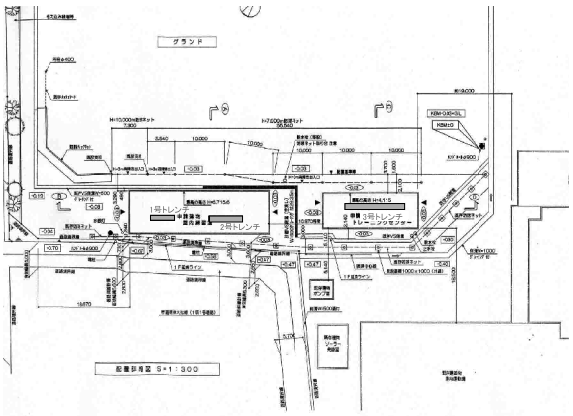
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨県立都留高等学校トレーニングセンターおよび屋内練習場の新築工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である大月遺跡に所在し、これまでに行われた体育館建設等に先立つ発掘調査により縄文時代中期後半や平安時代の集落跡が確認されていることから、埋蔵文化財包蔵地の範囲、性格、内容等の概要を把握するため試掘・確認調査を実施した。

今回は、試掘調査対象地に長さ約 7 ～ 10 m、幅約 0.8 mのトレンチを 3 本設定した。第 1 トレンチでは、平成 8 年時のグランド整地層・盛土層となる 1 層（砂層）、2 層（砂層）、3 層（砂礫層）、4 層（黒褐色土層）が地表から約 1.2 m以上の深さまで確人され、文化層の検出には到らなかった。第 2 号トレンチでは、第 1 号トレンチ同様、グランド整地層・盛土層（1 ～ 4 層）が確認された。5 層以下は、5 層（文化層：縄文時代）、6 層（シルト層）、7 層（粘質土層）、8 層（砂利層）の順に堆積し、地表から約 70㎝の深さまで堆積するグランド整地層・盛土層（1 ～ 4 層）の堆積下に縄文時代の文化層（5 層）が確認された。5 層では、縄文時代の土器片を出土したピットが 1 基確認された。第 3 号トレンチでは、1 層から 5 層までは第 2 号トレンチ同様である。5 層の堆積下は、9 層（褐色ローム層：第 2 号トレンチの 6 層から 8 層に対応する）、10 層（富士山を起源とする溶岩層）の順に堆積し、地表から約 60㎝の深さまで堆積するグランド整地層・盛土層（1 ～ 4 層）の堆積下に第 2 号トレンチで検出した縄文時代の文化層（5 層）が確認された。

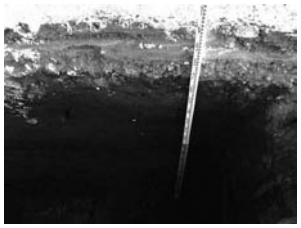
試掘調査の結果、第 2・3 号トレンチでは、縄文時代の文化層（5 層）が確認されたことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保）を行う必要がある。

第 1 図　山梨県立都留高等学校トレーニングセンター・屋内練習場建設事業位置図



第 2 図　トレンチ位置図

1 号トレンチ土層堆積状況



3 号トレンチ土層堆積状況

2　都留バイパス建設事業　試掘《美通遺跡》

所在地	都留市字井倉 285 外	調査期間	平成 21 年 1 月 21 日～年1月 27 日
担当者	笠原みゆき・古郡雅子	調査面積	360㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査対象地は、平成 20 年度に発掘調査された美通遺跡の東側に続く路線上である。掘削はバックホーを用いて実施し、人力による平面図及び断面精査・観察・記録を行い、東から西に向かって、15 本のトレンチを設定し調査をすすめた。平成 20 年度の調査地点 B1・B2 区では、縄文時代中期末の敷石住居跡や縄文時代早期～後期、古墳時代の遺物が検出されている。この遺構や遺物の分布範囲がどこまで広がるかを含め、確認調査をおこなった。

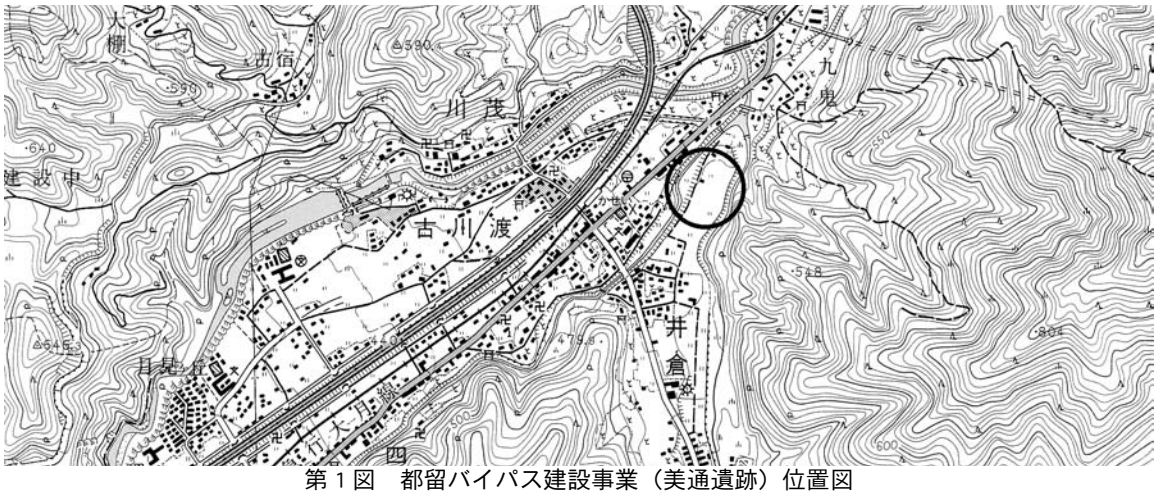
調査の結果、15 本設置したトレンチのうち、第 1 ～第 3 トレンチと第 4 ～第 15 トレンチでは、用水路をはさんで土層の堆積状況や、遺構の性格が異なることがわかった。

第 1 ～ 3 トレンチでは、表土を 20㎝ほど掘り下げるとすぐに火山灰を含んだ黒褐色土が検出できる。この層では、第 1 トレンチで土穴が 4 基、・集石土坑が 2 基確認された。これらの遺構の多くは、掘り込み面がわかりにくく、黒褐色土の下層にあるローム層まで掘り下げて確認できたものである。遺物は、縄文土器片が 1 点検出されたのみである。

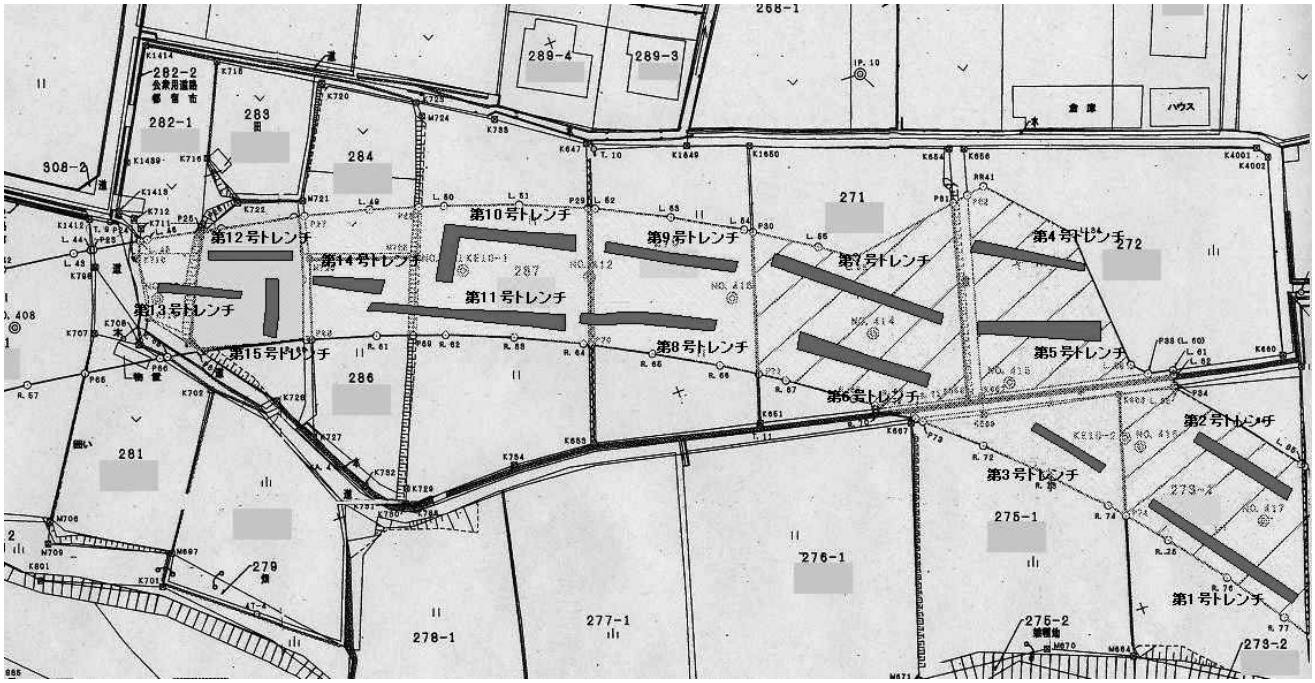
第 4 ～ 15 トレンチでは、第 1 ～第 3 トレンチの堆積とは違い、耕作面と第 1 ～ 3 トレンチで確認された黒褐色土の間に、厚い土壌の堆積が確認された。これらの土壌中には、発掘調査時に検出された橙色のスコリアが多く含まれる火山灰層に類似する層があり、縄文時代後・晩期～弥生時代頃に相当する。この層から上層の黒褐色土中から土坑 23 基と焼土が検出された。土坑の多くは、直径 100㎝前後のもので、トレンチの断面にて検出されたため形状ははっきりしない。しかし、第 5 トレンチで確認できた土坑は、底面に平らな石を並べた状態が検出され、この同じ層から常滑産のカメに類似した破片が検出できた。このため、同じ層位から掘り込まれた土坑は、13 ～ 14 世紀の遺構と考えている。また、焼土は、トレンチの多くで検出されているが、第 10・11・14 トレンチでは広範囲に見られ、しかも、同じようなレベルで焼土が検出された。何らかの遺構の可能性はあるが、掘り込み・遺物などは確認されなかった。

このような結果から、今回の試掘対象地では、縄文時代の土坑 4 基・集石土坑 2 基・焼土 1 ヶ所と中世以降の土坑 23 基･焼土数箇所が検出され、発掘対象面積は全面に及ぶことがわかった。また、今回の試掘対象地では、今年度の発掘調査で検出された猿橋溶岩のような大きな流れは検出されず、部分的に幅をもって検出される箇所と人頭大前後のブロック状に検出される箇所があり、全面的に溶岩が検出される状態ではなかった。

以上の結果から埋蔵文化財の保護の対象面積は、試掘対象面積と同じ 2,900㎡である。

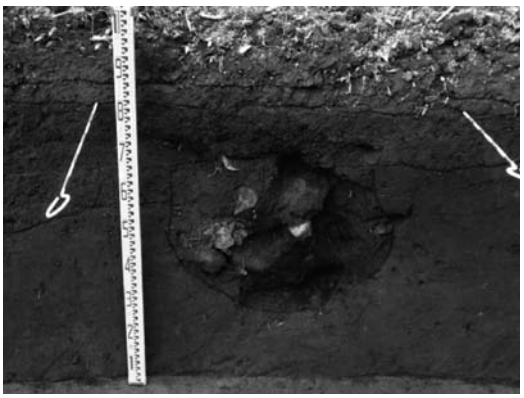


第 1 図　都留バイパス建設事業（美通遺跡）位置図



第２図　美通遺跡試掘調査トレンチ配置図

１号トレンチ全景



１号トレンチ　集石土坑検出状況

５号トレンチ　土坑検出状況

６号トレンチ　溶岩検出状況

3　甲府地方検察庁新営庁舎建設事業　試掘《甲府城下町遺跡・徽典館跡》

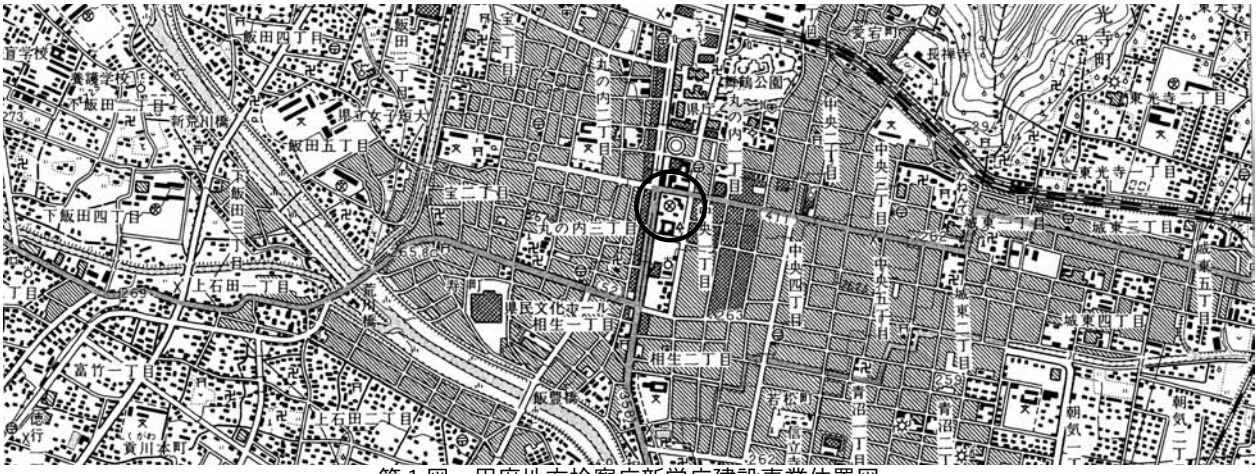
所在地	甲府市中央１－11 外地内	調査期間	平成 21 年１月 28 日～ 29 日、２月２日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	55㎡

調査経緯及び事業内容と結果

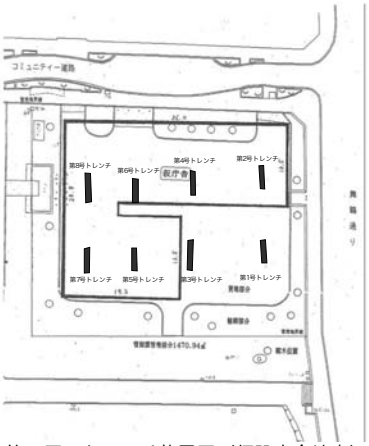
仮設庁舎建設地点は、甲府市中央１丁目 11 番地内（中央公園）に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡および徽典館跡地に所在することから、試掘調査を実施した。中央公園内北側に設定した第 2･4･6･8 号トレンチでは、遺構や遺物は確認されなかったが、南側に設定した第１・３・５・７号トレンチでは、江戸時代の文化層が確認されたことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保）を行う必要がある。

新庁舎建設地点は、甲府市中央１丁目 11 番８号地内（甲府地方検察庁敷地内）に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡に所在することから、試掘調査を実施した。現庁舎南側の職員駐車場内に設定した第１・２号トレンチで、地表から約１ｍの深さまで堆積する近現代の整地・埋土層（１～６層）の堆積下に江戸時代の文化層（７層）が確認された。７層では、上面で確認されたピット１基をはじめ、江戸時代の陶磁器やかわらけなどが出土した。現庁舎南側の一般駐車場内に設定した第３号トレンチでは、第１・２号トレンチと同様、地表から約 70㎝の深さまで堆積する近現代の整地・埋土層（１～６層）および近現代の文化層（Ａ～Ｄ層）の堆積下に江戸時代の文化層（７層）が確認された。７層では、遺構の検出には到らなかったが、江戸時代の土器（焙烙）などが出土した。

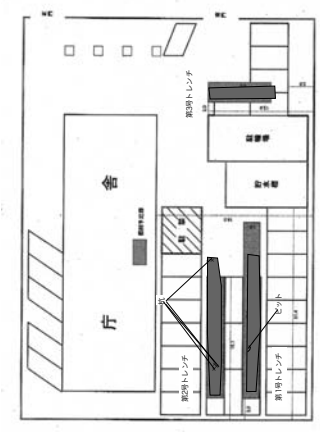
試掘調査の結果、第１～３号トレンチでは、江戸時代の文化層（７層）が確認されたことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の発掘調査等適切な保存措置を行う必要がある。



第１図　甲府地方検察庁新営庁建設事業位置図



第２図　トレンチ位置図（仮設庁舎地点）



第３図　トレンチ位置図（新営庁舎地点）

５号トレンチ土層堆積状況（仮設庁舎地点）

ピット検出状況（新営庁舎地点）

4　専門学校農業大学校建替事業　試掘《大月遺跡》

所在地	北杜市長坂町長坂上条 3251 地内	調査期間	平成 21 年 2 月 18 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	38㎡

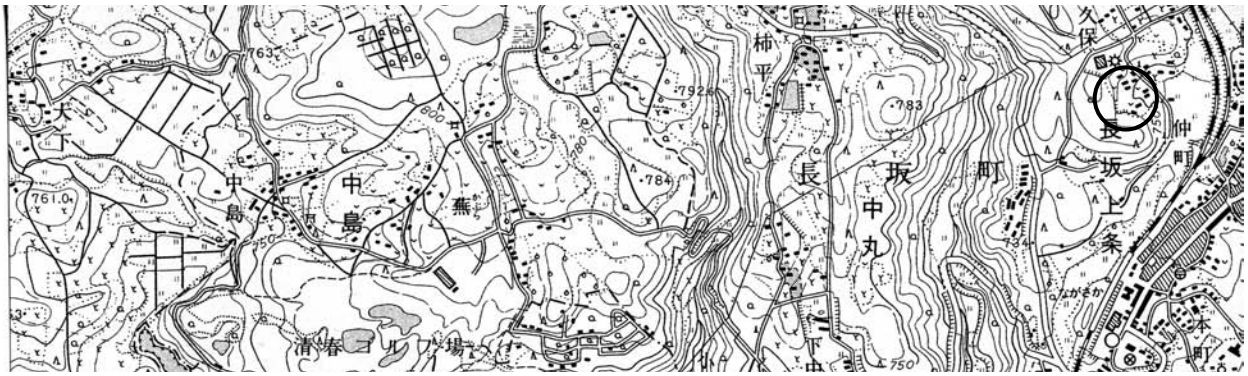
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、専門学校農業大学校建替工事である。周辺に酒呑場遺跡などの遺跡が所在することから、試掘調査を実施した。試掘調査対象地に、長さ約２～ 11 m、幅約１mのトレンチを 7 本設定した。

第１～３号トレンチは、仮説校舎建設予定地である寮舎と体育館の間の駐車場として使用されている地点に設定した。各地点の土層堆積状況は、駐車場として利用されているため、1 層は砕石層（灰オリーブ色砕石層）、2 層（整地層：にぶい黄褐色土層）、3 層（地山：褐色ハードローム層）の順に堆積する。１・2 層は駐車場のため整地された層であり、3 層はローム層で地山であった。現在はほぼ水平な土地であるが、元来斜面であり、開拓のため削平されたものと考えられる。この地点では、遺構・遺物は発見されなかった。

第４～７号トレンチは、新営本館建設予定地である本館と教室実験室の間の植栽の間に設定した。土層の堆積状況は、1 層（芝生:褐色土層）、2 層（黄褐色土層、暗褐色土層、褐色土層）、3 層（黄褐色ソフトローム層）、4 層（褐色ハードローム層）の順に堆積し、2 層目は、盛土と考えられ、3 層目以下は地山層であった。この地点でも遺構・遺物の検出には到らなかった。

試掘調査の結果、第１～３号トレンチの土層堆積状況は、表土直下に地山が確認され、いずれも遺物や遺構は全く確認できていない。また、第４～７号トレンチにおいても、表土下は盛土層で、その直下で地山が確認されおり、ここでも遺構・遺物は発見していないので、遺跡は存在しないものと考えられる。よって、工事を実施するのに当たり、支障はないものと判断される。



第１図　専門学校農業大学校立替事業位置図

第２図　専門学校農業大学校立替事業位置図

１号トレンチ土層堆積状況

７号トレンチ土層堆積状況

5　風土記の丘･曽根丘陵公園整備(方形周溝墓広場展望台改築) 事業　試掘《上の平遺跡》

所在地	甲府市下向山地内（風土記の丘・曽根丘陵公園内）	調査期間	平成 21 年 6 月 1 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

今回の調査は、甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園内に埋設保存されている「方形周溝墓広場」内の展望台の老朽化による建替えに伴う試掘調査であり、埋設保存されている箇所の盛り土の厚さや、既存の展望台基礎の最深部の確認をおこなうための、試掘調査を人力により実施した。

試掘調査は、展望台の柱のコーナー付近を掘り下げ、調査を実施した。その結果、地表下 0.5 ～ 0.7 m程で盛り土（黄褐色粘質土 / 礫混入）が見られ､その下部には遺構保護のための防護ネットの痕跡が確認され、その下部には（暗褐色粘質土 / 礫混入）が見られた。

第 1 図　風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業位置図

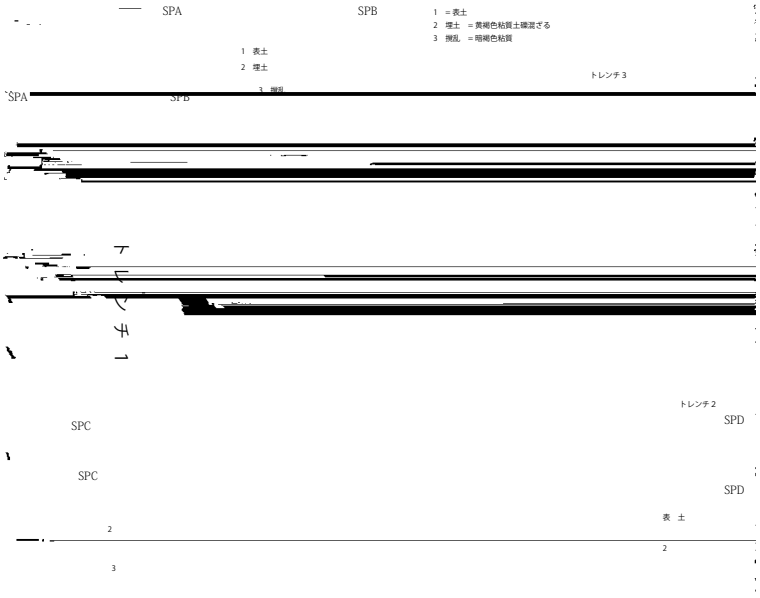
今回の試掘調査の結果、防護ネット下部にまで掘削が及んでおり、展望台の基礎部分は地表より深さ 1.1 mまで及んでいることが確認された。

調査の結果、新設する展望台基礎掘削に関し、基礎の最大深度を 1.1 m以内とし、新設場所も既設の展望台と同位置に建設することとし、新たな掘削により保存地区への影響が及ばないように、施工することで了承された。

作業風景

展望台基礎下部確認状況

第 2 図　曽根丘陵公園全体図



第 3 図　試掘調査平面図・セクション図

6　中部横断自動車道（南部区間）建設事業　試掘（大神遺跡ほか）

所在地	南巨摩郡南部町本郷字上大神 366 外地内	調査期間	平成 21 年 6 月 3 日
担当者	山本茂樹、稲垣自由	調査面積	大神遺跡　60㎡ほか

調査経緯及び事業内容と結果

国土交通省と山梨県による新直轄方式区間約 28㎞（南部町から市川三郷町まで）の中部横断自動車道建設事業に先立ち、試掘調査が実施された。

（1）周知の埋蔵文化財包蔵地である大神遺跡は、平成 20 年度に取得された用地内において試掘調査が実施された。その結果、遺構は確認されなかったが、土器片数点が確認された。このことにより、未取得地に遺跡の存在が想定されるため、今回取得された約 600㎡を対象として試掘調査を実施した。

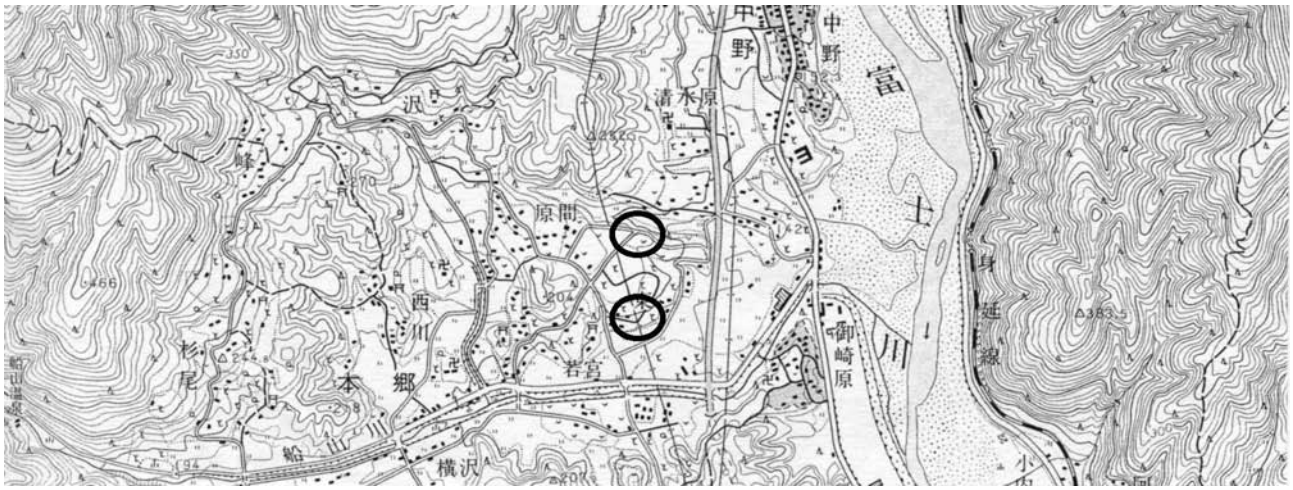
試掘溝は、傾斜に沿って南北方向に 4 本を設定した。長さは 6 m～ 10 m、幅は 1.5 m前後である。深さは 0.5 mで、礫が確認された。この礫は、昨年度の試掘調査においても確認されており、この周辺で認められている礫である。

各試掘溝を設定し掘削した結果、現地表下 30㎝前後は耕作土で、その下は礫層であった。試掘溝の底面を精査し遺構確認を行ったが、遺構および遺物は確認されなかった。

（2）原間遺跡隣接地は、原間遺跡の北側、谷部分の試掘調査である。ここでは原間遺跡に関連する水辺の遺構が想定されたため斜面から平地にかけて掘削を行った。斜面では、現地表から約 20㎝で礫層が確認され、平地まで続いており、遺構、遺物は確認されなかった。平地では、現地表から約 20㎝で粘性の強い青灰色の土と礫の混入が認められ、遺構および遺物は確認されなかった。

（3）調査結果のまとめ

以上の結果から、両地点には文化財保護法上、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はないものと思われる。



第 1 図　中部横断自動車道建設事業位置図

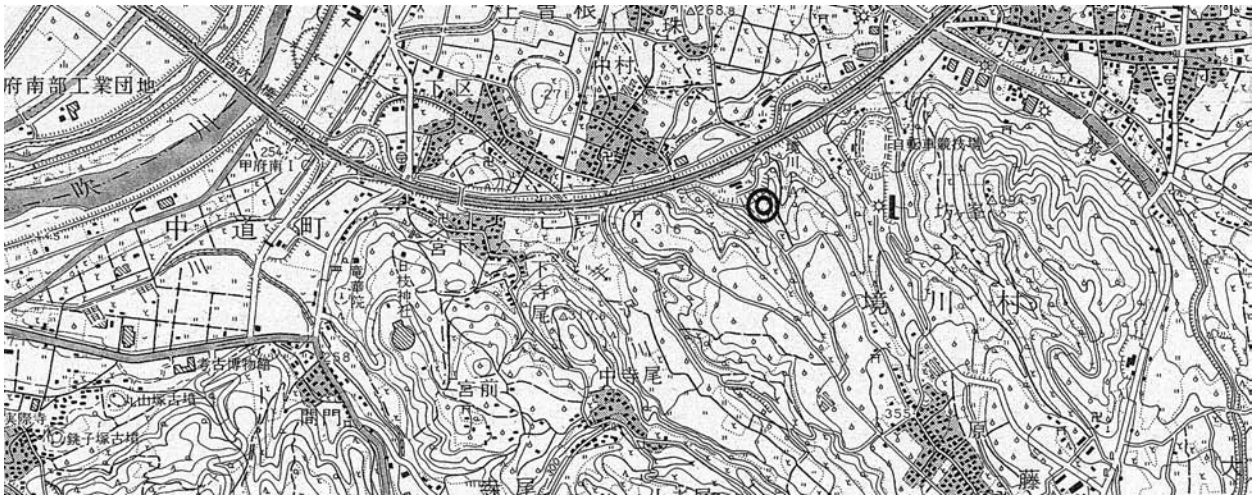
試掘溝底面の状況（礫層）

原間遺跡北側、谷部斜面部

7　山梨リニア実験線（境川土捨場造成）建設事業　試掘《御所山遺跡》

所在地	笛吹市境川町藤垈字御所山 4073 外地内	調査期間	平成 21 年 6 月 8 日～ 9 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	265㎡

調査経緯及び事業内容と結果



第 1 図　山梨リニア実験線（境川土捨場造成）建設事業位置図

山梨リニア実験線境川土捨場については、平成 3 年度に試掘調査が実施され、埋蔵文化財が確認された部分については本調査が行われている。今回の試掘調査範囲周辺は、前回の試掘調査時に遺構が確認されてはいたが、不明瞭な部分が多いため、掘削が及ぶ箇所に範囲確認のための試掘調査を実施した。

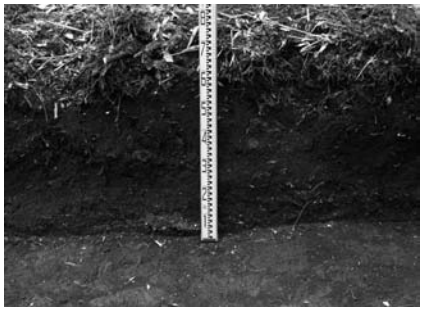
調査は、掘削予定範囲内に重機によりトレンチを掘削し、人力によりトレンチ内の精査を行い、遺構・遺物の確認を行った。

調査区内に合計 6 本のトレンチを設定し、1 号・6 号トレンチはほぼ南北方向、2 ～ 5 号トレンチはほぼ東西方向に設定した。長さは 19.0 m～ 25.0 m、幅 2.0 ～ 3.0 m、深さ 0.4 ～ 0.6 mを測る。確認された土層断面は、1 層が暗褐色土（腐植土）、2 層が褐色粘質土（小礫含む）、3 層が黄褐色粘質土（小礫含む）で遺構確認面の地山層となる。

試掘調査の結果、各トレンチから希薄であるが遺構や遺物が確認されている。確認された遺構は、1・4・5 号トレンチから溝状遺構、1 ～ 3 号トレンチからピット、6 号トレンチから住居跡や焼土が確認され、遺物は縄文時代前期、古墳時代前期、近世の遺物が確認された。

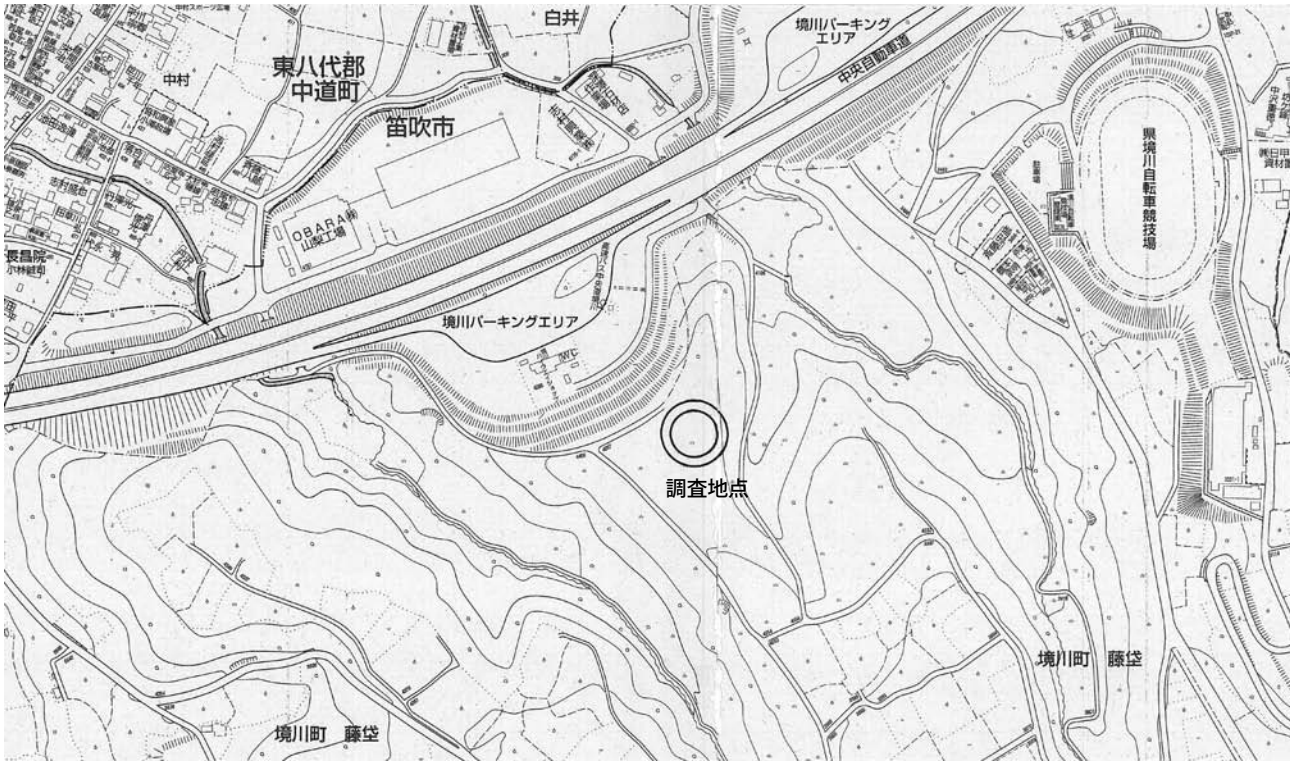
このような試掘調査の結果を踏まえ、文化財保護法の手続きを終えた後、鉄道運輸機構、県教育委員会で協議を行い平成 21 年 10 月 1 日～ 10 月末日までの 1 ヶ月の予定で、本調査を行うこととなった。

作業風景

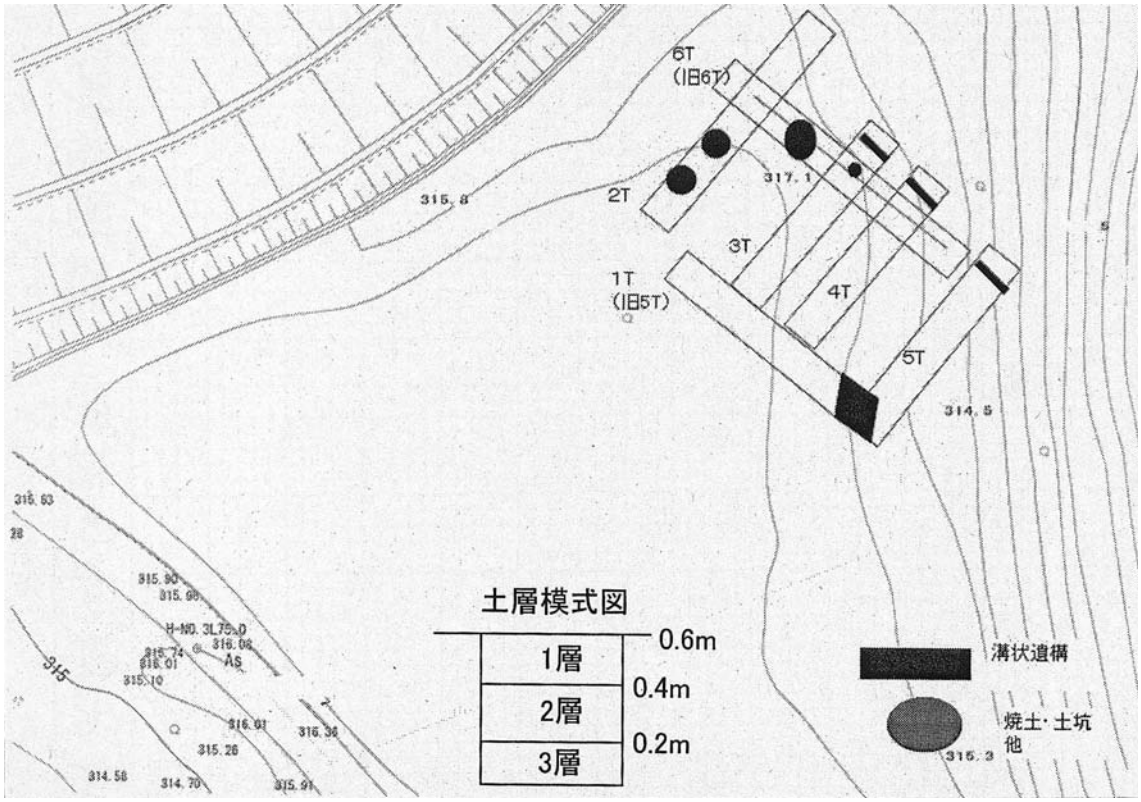


土層断面

遺構確認状況



第２図　試掘調査位置図



第３図　試掘トレンチ配置図

8　平等川基幹河川改修事業　試掘《堤防遺跡推定地：七沢の渡し場》

所在地	甲府市向町 655-4 外地内	調査期間	平成 21 年 6 月 12 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	19.8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平等川河川改修事業については、平成 19 年度より旧春日居町をはじめとし、「堤防遺跡」や「七沢の渡し場」等が想定されることから試掘調査を行ってきた。

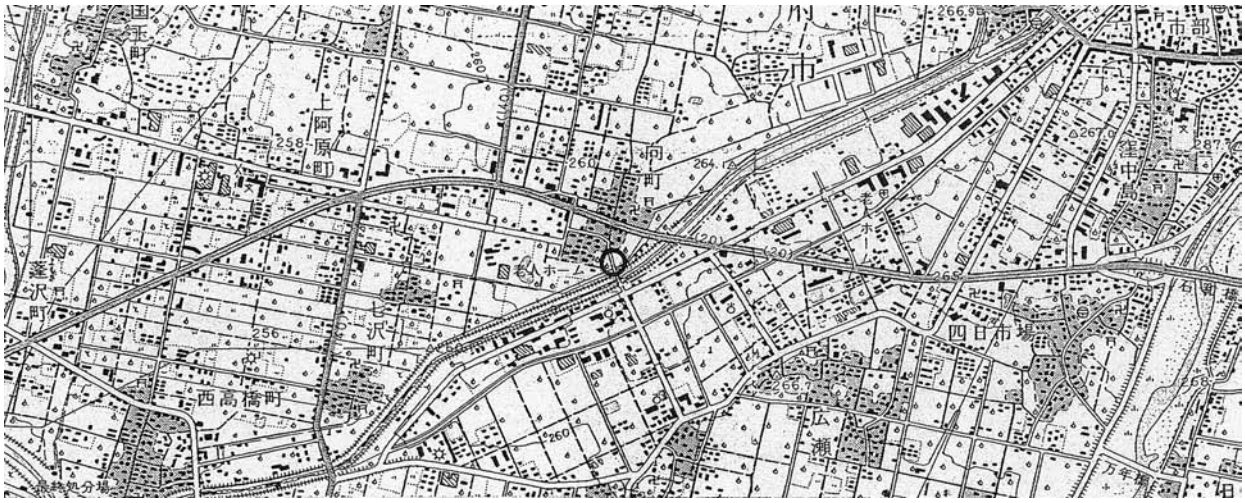
今回の試掘調査は、今年度改修工事が行われる甲府市と笛吹市の境に位置する向橋付近（別添図）について、重機を使用し、試掘調査を実施した。試掘調査は、別添図の道路を挟む 2 筆の畑について 4 箇所のトレンチを設定し実施した。

トレンチは長さ 2.9 ～ 3.8 m、幅 1.6 m～ 1.9 m、深さ 1.2 ～ 1.5 mを 4 本設定した。

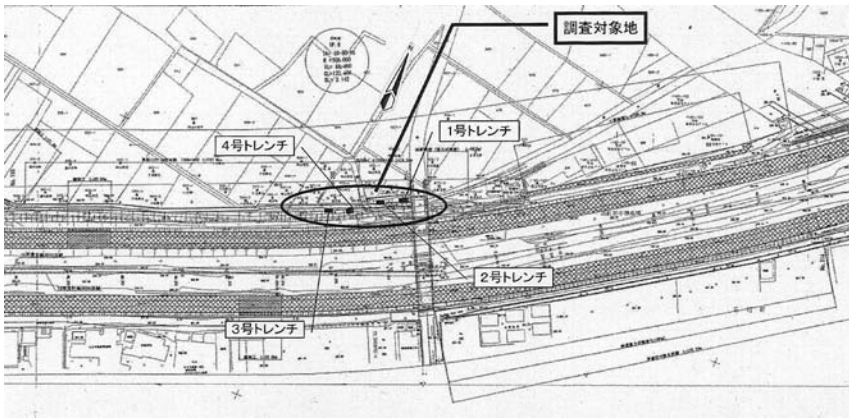
調査の結果、調査対象地の土層断面は河川の自然堆積による砂質土が堆積し、1 層 = 黒褐色砂層、2 層 = 暗褐色砂層、3 層 = 赤褐色砂層、4 層 = 灰褐色砂層が見られ、深さ 1.5 m以降は青褐色砂層に礫が混入しており、地下水も非常に高い状況であった。このため、トレンチの崩壊が激しく、トレンチ内部の精査を行うことができなかったが、堤防等が構築された痕跡はみられなかった。今回の調査の結果、地表下約 1.5 m程度掘り下げを行い調査を行ったが、調査対象地における堤防施設に関する遺構や遺物の検出はできなかった。

このため、今回の調査対象地における埋蔵文化財の保護の対応は必要ない。

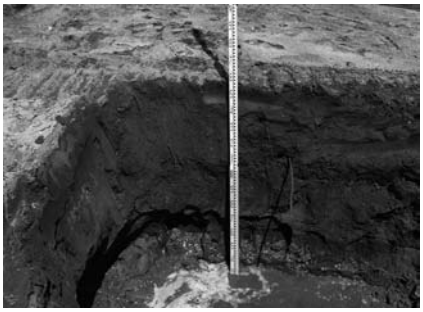
しかし、河川改修はこれから下流域（西側）に及ぶため、今後、協議を行なう中で、立会調査等の対応をしていく。



第 1 図　平等川基幹河川改修事業位置図



第 2 図　試掘トレンチ配置図



2 号トレンチ土層堆積状況

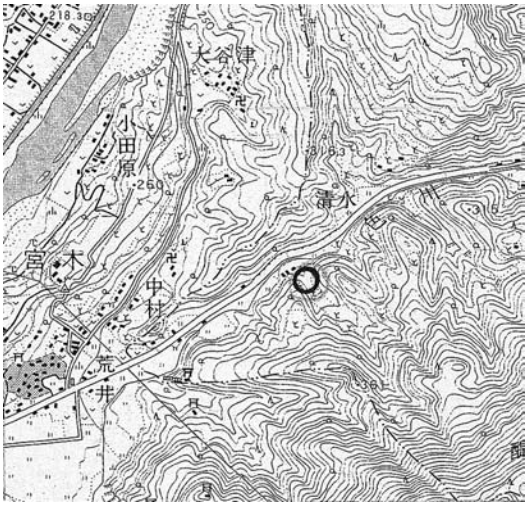
9　中部横断自動車道（醍醐トンネル）建設事業　試掘《南巨摩郡身延町一色地内》

所在地	南巨摩郡身延町大字一色字和田 5324 外	調査期間	平成 21 年 7 月 1 日、3 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	91.8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

中部横断自動車道建設事業に伴って、平成 18 年度には現地踏査を行い、試掘調査など必要箇所を国交省等に明示している。

この踏査結果を踏まえ、平成 21 年 5 月には南部町や身延町地内にかかる事業地内の用地取得状況を踏まえた試掘調査等に関する協議がなされており、この中で、身延町の一色地区（醍醐山トンネル）について、試掘調査予定地までの工事用道路等の準備が整ったため、調査必要箇所の平坦部に、４本のトレンチを設定（別添図）し、試掘調査を実施した。

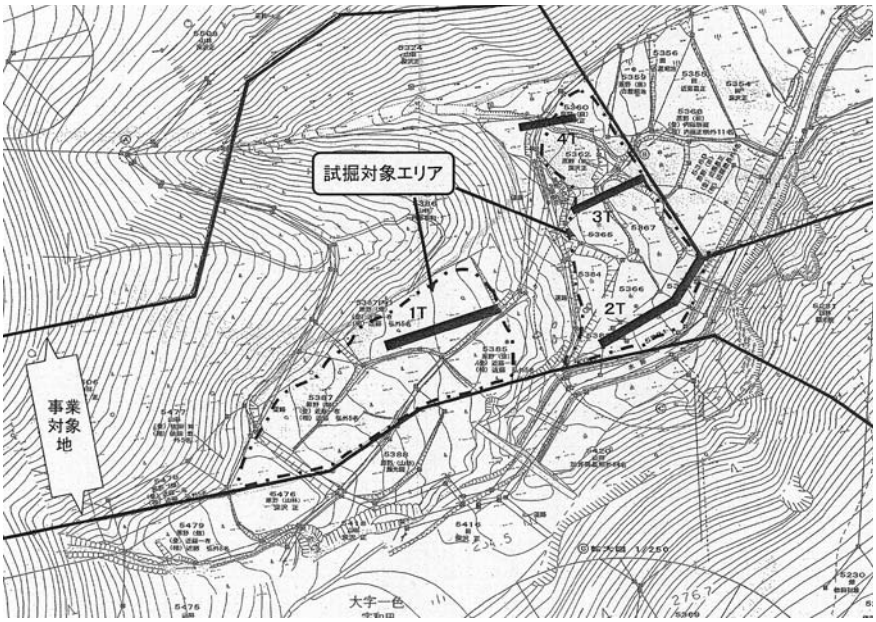


第１図　中部横断自動車道（醍醐トンネル）建設事業位置図

１号トレンチは、事業地内南側の台地上の平坦部に設定した。幅 1.2 m、長さ 25.0 m、深さ 2.2 mを測り、土層断面は、地表下 0.4 mで暗褐色粘質土（耕作土）、その下には暗黄褐色粘質土に 5㎝～ 20㎝大の礫を多く含んでいる。２号トレンチは、幅 1.2 m、長さ 27.0 m、深さ 1.3 mを測り、台地下の東側の水路に沿って設定した。１層が暗黒褐色粘質土、２層が黄褐色粘質土が見られた。３号トレンチは幅 1.2 m、長さ 14.5 m、深さ 2.3 mを測り、表土が 10㎝程度見られたほか、2.3 mまで岩盤がみられた。４号トレンチは、幅 1.2 m、長さ 10.5 m、深さ 2.0 mを測る。土層は、1 層が黄褐色粘質土、2 層が青灰色粘質土、3 層明青淡色粘質土、4 層に暗青灰色粘質土がみら 2 層から 4 層は特に粘性は強い。今回は、現地踏査を基に、４箇所のトレンチを設定し試掘調査を実施した。

調査の結果、地表下 2.0 m～ 2.3 m程掘り下げを行ったが、調査対象地内における安定した生活面は確認されず、遺構や遺物の検出はできなかった。

このため、今回の調査対象地における埋蔵文化財の保護の対応は必要ない。



第２図　試掘トレンチ配置図

重機使用状況

１号トレンチ土層堆積状況

10　城東Ⅱ期バイパス建設事業　試掘《甲府市砂田町地内》

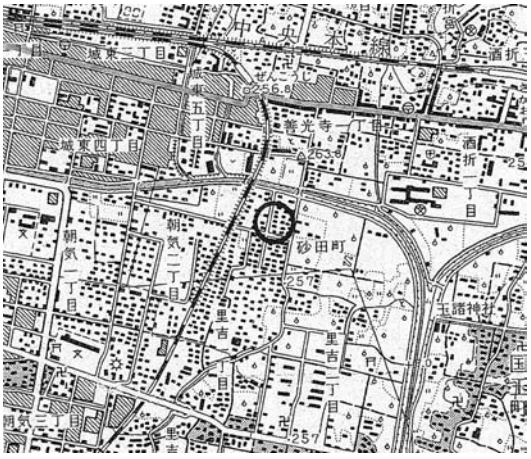
所在地	甲府市砂田町 5-3 外地内	調査期間	平成 21 年 7 月 7 日～ 8 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	129.6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

城東バイパス建設については、供用開始されている甲府市国玉町地内についても、平成 3 年度に試掘調査を実施した経緯があり、今回、甲府市砂田町地内の用地がまとまって取得された部分について、調査を実施した。

調査は、事業地内の上下水道管等の地下埋設物をさけながら、重機によりトレンチ掘削を行い、土層断面の観察、遺構遺物の確認等を行った。

今回の調査は、供用開始されている部分の西側約 130 m程の用地取得されている範囲内を行うこととした。トレンチは、上下水道等の地下埋設物をさけながら、幅 1.2 m、長さ 7.0 m～ 15.0 m､深さ 1.1 m～ 1.9 mのトレンチを 9 本設定し調査を行った。



第 1 図　城東Ⅱ期バイパス建設事業査位置図

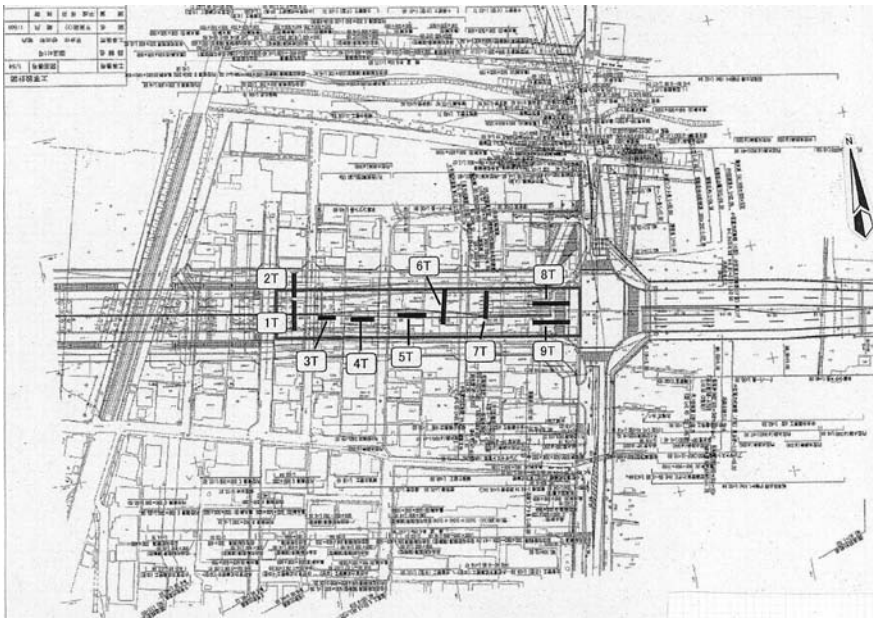
調査の結果、トレンチ全体から粘土層（黒色・青黒色・緑灰色・青灰色)、砂層（赤褐色・青灰色・暗灰色）が見られ、砂層からは地下水が見られた。

平成 3 年度の試掘調査でも、同様に粘土層と砂層ばかりで、遺構や遺物は確認はされていない。

上記のように 9 箇所のトレンチにおいて、粘土層や砂層が確認されるなど、遺構や遺物は確認できなかった。このため、埋蔵文化財の対応は必要ないものと思われる。

一部のトレンチから地表下 0.4 m～ 0.6 mに黒色の粘土層が確認されており、恐らく遺構が存在するとすれば、黒色粘土の上面が考えられるが、住宅建設や宅地造成などで、削平されている状況が伺えた。

今回の試掘調査では、埋蔵文化財について確認されていないが、道路建設については、砂田町の一部やさらに西側の朝気地区に延びるため、事業地内の用地がまとまって取得できた段階で、順次、試掘調査を行っていき、埋蔵文化財の保護に努めていく必要がある。



第 2 図　試掘トレンチ配置図

調査区近景

5 号トレンチ土層堆積状況

11　山梨リニア実験線（変電所）建設事業　試掘《竜安寺川西遺跡》

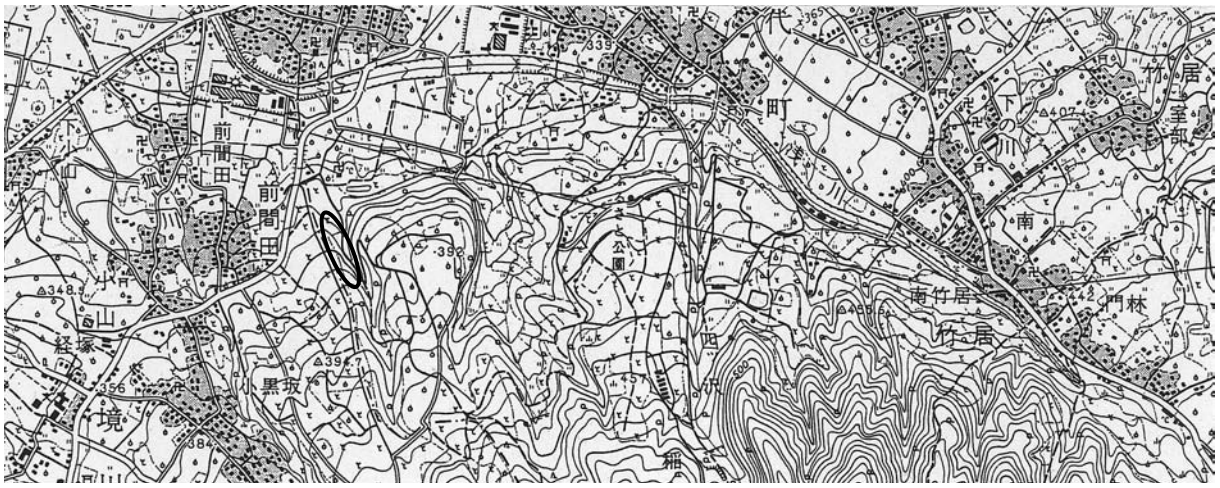
所在地	笛吹市八代町米倉 2085 地内	調査期間	平成 21 年 7 月 9 日～ 10 日、13 日～ 15 日
担当者	保坂和博	調査面積	約 345㎡

調査経緯及び事業内容と結果

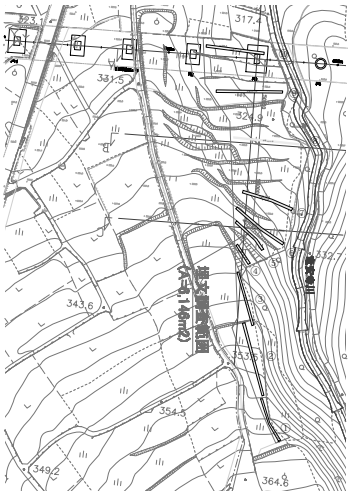
試掘調査地点は笛吹市八代町米倉地内の山梨リニア実験線の変電所建設予定地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である竜安寺川西遺跡が所在することからこれまでに本事業に伴う試掘調査および発掘調査が実施されている。今回は平成 21 年 6 月 4 日に行われた鉄道・運輸機構と当センターとの現地協議に基づき、竜安寺川から 40 m内の砂防区域を対象として、長さ約 17 ～ 42 m、幅約 1 m、深さ約 0.5 ～ 1.5 mのトレンチを 10 本設定し、実施することとなった。

第 1 号～第 3 号トレンチは北向斜面上に設定し、土層の堆積状況は表土の下層（にぶい黄褐色土）に暗褐色土、黒褐色土、極暗褐色粘質土、褐色粘質土の順で自然堆積層が検出され、遺構・遺物ともに確認されなかった。第 4 号～第 10 号トレンチは竜安寺川に面する東向急傾斜地に設定し、土層の堆積状況は、表土の下層（黒褐色土）に黒褐色土、暗褐色土、黒褐色土粘質土、極暗褐色土の順で客土が検出され、それ以下は地山（褐色土）が確認された。遺物は黒褐色土と黒褐色粘質土から縄文時代および奈良･平安時代の磨滅した土器片がごく少量出土し、遺構は確認されなかった。

試掘調査の結果、遺構は全く検出されず、遺物は第 8 号～第 9 号トレンチの客土層からの出土であるため、遺跡は存在しないものと考えられる。よって、工事を実施するのに当たり、支障はないものと判断される。



第 1 図　山梨リニア実験線建設事業位置図



第 2 図　試掘トレンチ配置図

第 1 号トレンチ土層堆積状況

第 5 号トレンチ土層堆積状況

第 8 号トレンチ土層堆積状況

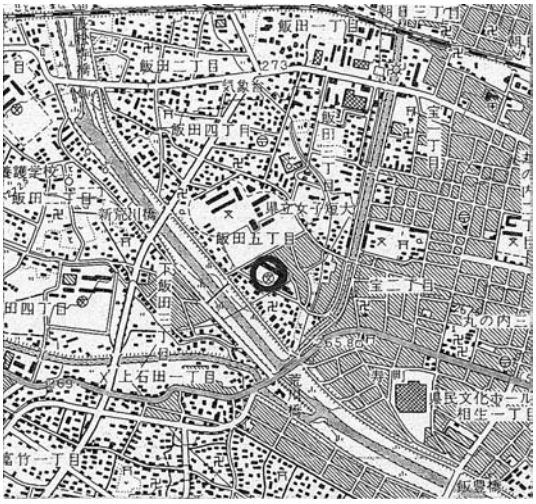
第 10 号トレンチ土層堆積状況

12　県立中央高等学校改築事業　試掘《甲府市飯田地内》

所在地	甲府市飯田 5 丁目 6-2 地内	調査期間	平成 21 年 8 月 3 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	調査面積 24㎡

調査経緯及び事業内容と結果

県立中央高校改築に伴う試掘調査であるが、詳細な改築計画等は明確にはなっていない。　しかし、6 月の現地協議の中で、改築にあたって埋蔵文化財の有無について事前に把握する必要があることから、今年度中に試掘調査を行うこととし、高校側からの要望により、夏休みの期間中に行うこととし、グラウンドへの影響等や地下埋設物を勘案し、2 箇所に限定して試掘調査を実施することとなった。試掘調査は、重機により掘削を行い、トレンチの断面や平面観察をおこない、遺構、遺物の確認をおこなった。



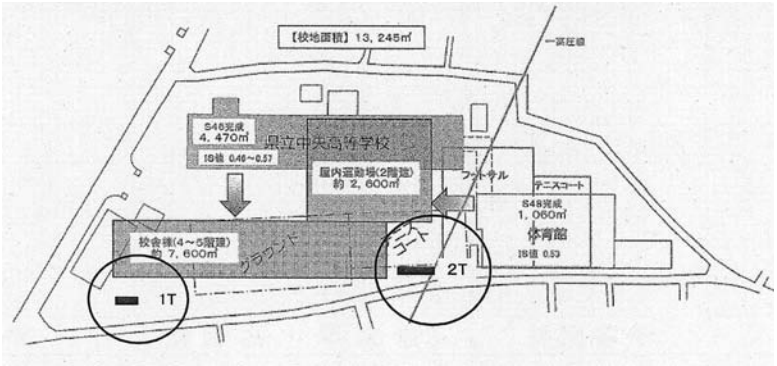
第 1 図　県立中央高等学校改築事業位置図

1 号トレンチは、中央高校西側隅に幅 1.5m、長さ 5.0 m、深さ 2.1 mのトレンチを設定し調査を行った。表土は暗褐色粘質土が見られた他は、暗褐色砂層、浅黄橙砂層、黄橙褐色砂層等の砂層（細砂粒）が堆積しており、遺構や遺物は確認できなかった。

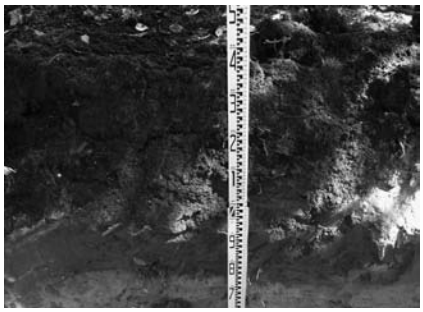
2 号トレンチは、テニスコート南側に幅 1.5 m、長さ 11.0 m、深さ 1.7 mを設定し調査を行った。

1 号トレンチと同様、砂層が堆積しており、中程には浅黄橙粘質土が見られたものの、遺構や遺物の確認はできなかった。調査の結果、設定したトレンチからは、安定した生活面等は確認されず、遺構や遺物も確認できなかった。

このため、県立中央高校改築にあたっては埋蔵文化財の保護の必要は無いものと思われる。

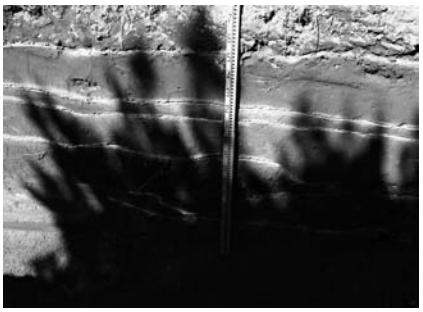


第 2 図　試掘トレンチ配置図



1 号トレンチ土層堆積状況

2 号トレンチ掘削状況



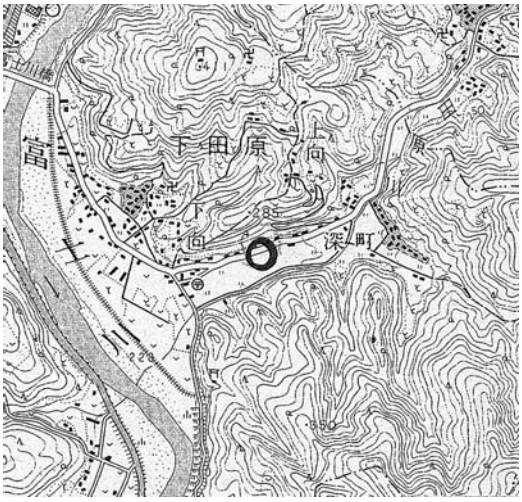
2 号トレンチ土層堆積状況

13　中部横断自動車道建設事業　試掘《南巨摩郡身延町下田原地内》

所在地	南巨摩郡身延町大字下田原字広反歩1539-1外地内	調査期間	平成21年8月6日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	37㎡

調査経緯及び事業内容と結果

中部横断自動車道建設に伴って、平成18年度には現地踏査を行い、試掘調査など埋蔵文化財の対応必要箇所を国交省等に明示している。　この中で、身延町の下田原地区について、試掘調査予定地の雑木林の伐採等の準備が整ったため、試掘調査を行うこととした。



第１図　中部横断自動車道建設事業位置図

今回の試掘調査は、県道割子・切石線を挟む事業予定地内の用地が取得されている北側の山の緩斜面と、南側の平坦部の湿地帯について、重機によるトレンチ掘削を行い、断面観察や平面観察により、遺構、遺物の確認を行った。

1号・2号トレンチは、山の緩斜面に設定し、調査を行った。

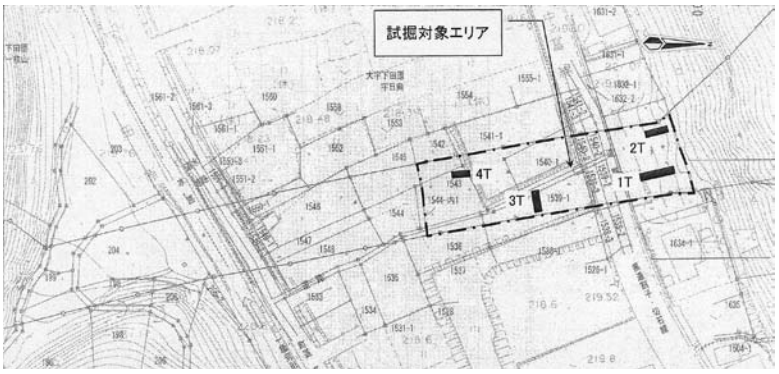
トレンチは長さ6.0ｍ～9.0ｍ、幅1.5ｍ、深さ0.9～1.30ｍを測る。土層断面は、腐植土が数㎝見られた他は、礫を含む黄褐色を主体とした地山の粘土層が堆積するなど、遺構、遺物の確認はできなかった。

3号・4号トレンチは調査区南側の湿地帯に設定した。

トレンチは長さ4.0ｍ～5.5ｍ、幅1.5ｍ、深さ1.2ｍを測る。調査地は沼地の様な状況であり、明青灰色や暗青灰色の粘土の堆積がみられ、遺構や遺物については皆無である。

今回の調査区に関し、合計４本のトレンチを設定し、調査を行ったが、前述したとおり埋蔵文化財について確認はできなかった。

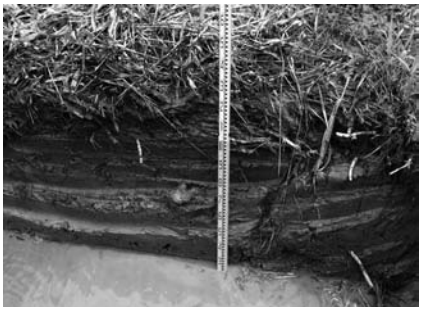
このため、この調査箇所における中部横断自動車道の建設については、全く問題ないものと思われる。



第２図　試掘トレンチ配置図

１号トレンチ土層堆積状況

１号トレンチ完掘状況


３号トレンチ土層堆積状況

14　国道 358 号（甲府精進湖線）拡幅事業　試掘《諏訪前南遺跡》

所在地	甲府市中畑町字中町 253-1 外地内	調査期間	平成 21 年 9 月 14 日～ 16 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	58㎡

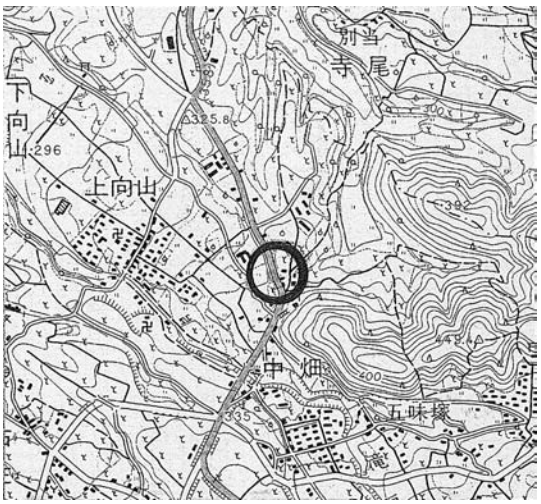
調査経緯及び事業内容と結果

中北建設部により、交通対策道路事業として国道 358 号の拡幅工事が実施されることとなり、事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地「諏訪前南遺跡」が存在することから、8 月 21 日に現地協議を行い、試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は、重機及び人力による調査可能箇所へのトレンチ掘削を行い、土層断面の観察、遺構、遺物の有無を確認した。

試掘トレンチは、幅 1.5 ～ 2.0 m、長さ 2.0 ～ 13.0 m、深さ 0.55 ～ 1.55 mのトレンチ 7 本を設定し調査を行った。

１～３号トレンチは重機により掘削を行った。その結果、表土＝暗褐色粘質土（耕作土）が 0.3 m見られ、その直下には褐色粘質土（地山）が確認されていることから、既に上部が削平されている可能性が高い。



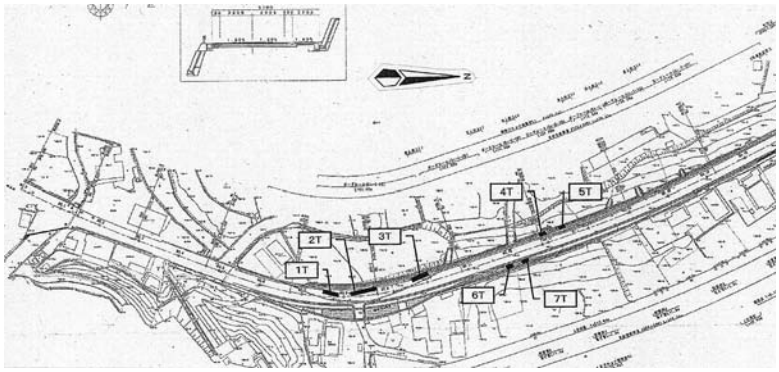
第 1 図　国道 358 号拡幅事業位置図

４～７号トレンチについても、表土＝暗褐色粘質土（耕作土）が 0.3 m程見られ、その下には黄褐色粘質土が見らた。

上記のように、埋蔵文化財に関しては、表土直下に地山（ローム層）などが確認されるなど、遺構や遺物の確認には至っていない。

今回の試掘調査の結果、調査可能箇所について、重機や人力により調査を行ったが、遺構や遺物は確認できなかった。

このため、基本的には工事に支障はなものと考えられるが、国道拡幅北側部分は、狭小であることや、コンクリート敷設部分であったことから、試掘調査は実施していない。このため、この箇所がより周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内にあたるため、工事を行うにあたっては、慎重工事等の対応が望まれる。



第 2 図　試掘トレンチ配置図

重機使用状況

作業風景

6 号トレンチ完掘状況

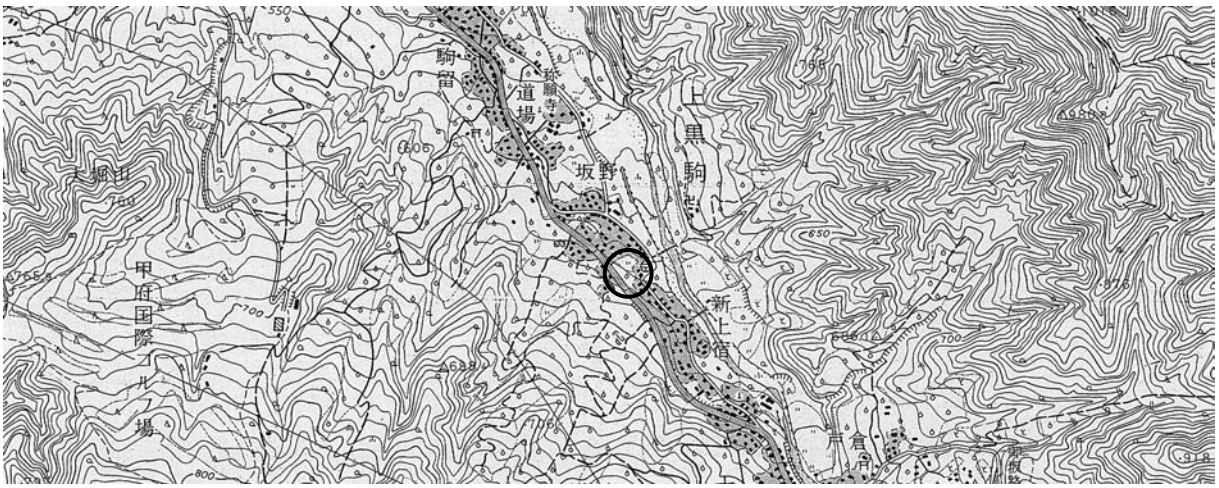
15　山梨リニア実験線（資材置場）建設事業　試掘《笛吹市御坂町上黒駒地内》

所在地	笛吹市御坂町上黒駒字六ッ長 3422-1 外地内	調査期間	平成 21 年 9 月 17 日
担当者	三田村美彦	調査面積	18㎡

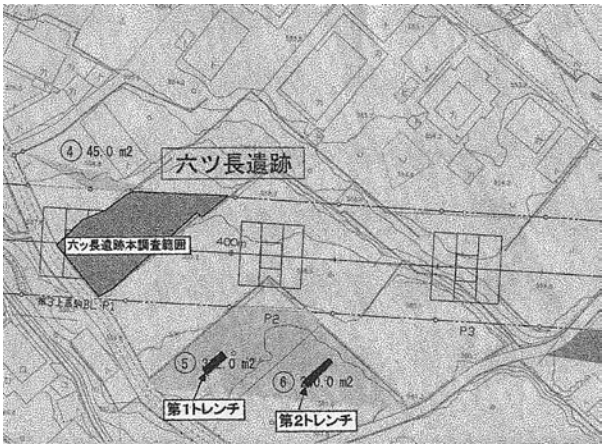
調査経緯及び事業内容と結果

山梨リニア実験線建設に伴い、平成 21 年 9 月 3 日に実験線建設用資材置き場建設予定地の現地踏査を行った。この地点は、今年度本調査を行った六ッ長遺跡に近接するため、鉄道・運輸機構、施工業者、学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センターの協議の結果、試掘調査を行うこととなった。

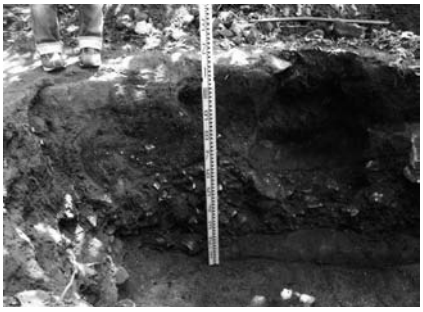
試掘対象地に幅 1.5 m、長さ 5.0 mの第１トレンチと、幅 1.5 m、長さ 7 .0 mの第２トレンチを設定し調査を行った。調査の結果、第１トレンチでは、表土下に砂礫層、砂層など河川堆積層が認められた。第２トレンチでは、表土下に暗褐色土層、褐色土層が堆積していたが、宅地造成やその後の果樹畑への転用などで、削平されている状況が伺えた。両トレンチとも遺物や遺構は検出されず、工事を実施するにあたり支障はないものと判断される。



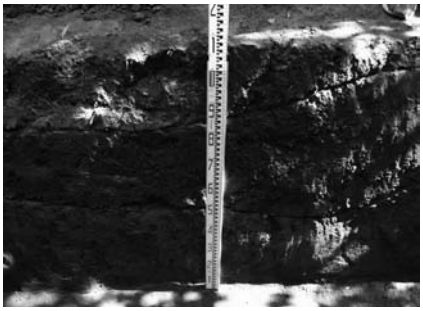
第１図　山梨リニア実験線（資材置場）建設事業位置図



第２図　試掘トレンチ配置図



第１トレンチ断面



第２トレンチ断面

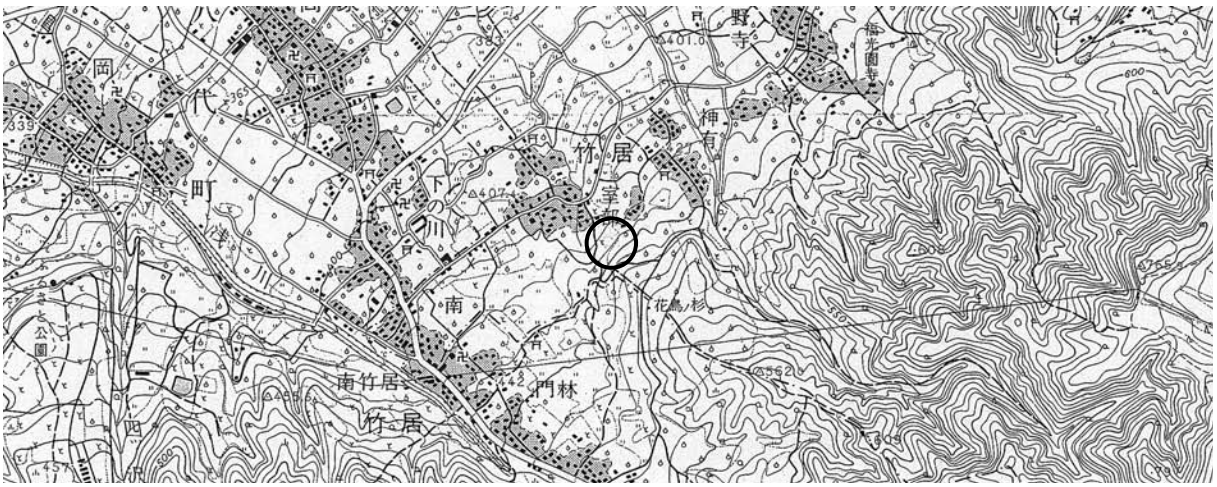
16　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業　試掘《笛吹市御坂町竹居地内》

所在地	笛吹市御坂町竹居字太鼓畑 3185-1 外地内	調査期間	平成 21 年 10 月 13 日～ 14 日
担当者	三田村美彦	調査面積	10㎡

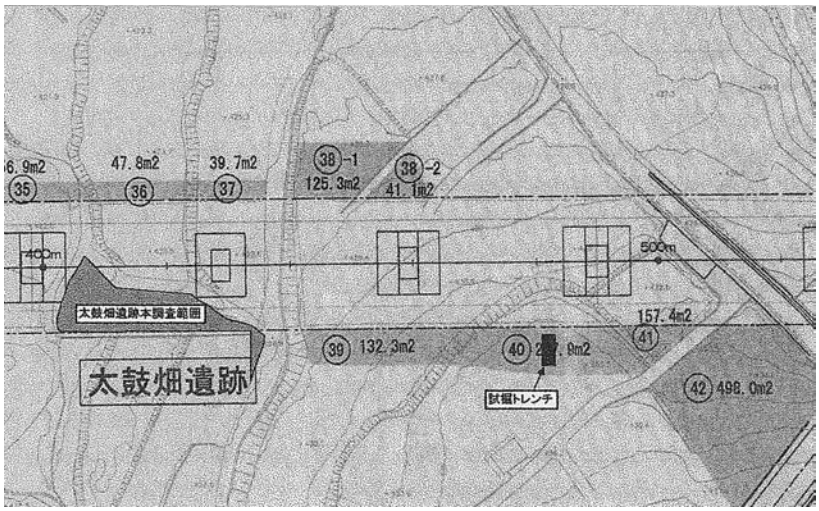
調査経緯及び事業内容と結果

山梨リニア実験線建設に伴い、平成 21 年 9 月 3 日に工事用道路建設予定地の現地踏査を行った。この地点は、今年度本調査を行った太鼓畑遺跡に近接するため、鉄道・運輸機構、施工業者、学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センターの協議の結果、試掘調査を行うこととなった。

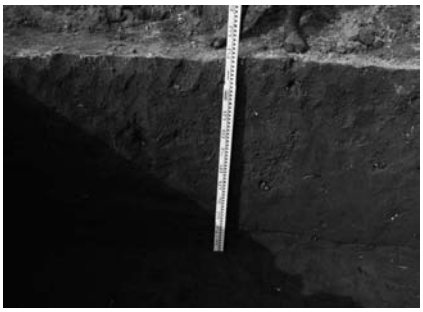
試掘対象地のほぼ中央に、幅２ｍ、長さ５ｍのトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、トレンチ北側では果樹園となる前に行っていたゴボウなどの根菜類による削平が、遺構確認面である黄褐色土層まで及んでいる状況が伺え、遺物や遺構は検出されなかった。トレンチ南側では、前述した耕作によって形成された表土層下に約５ｍの黒褐色土層が確認されたが、トレンチ北側と同様に削平された状況が伺え、遺物、遺構は確認されず、工事を実施するにあたり支障はないものと判断される。



第１図　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業位置図



第２図　試掘トレンチ配置図



トレンチ南側断面

トレンチ北側断面

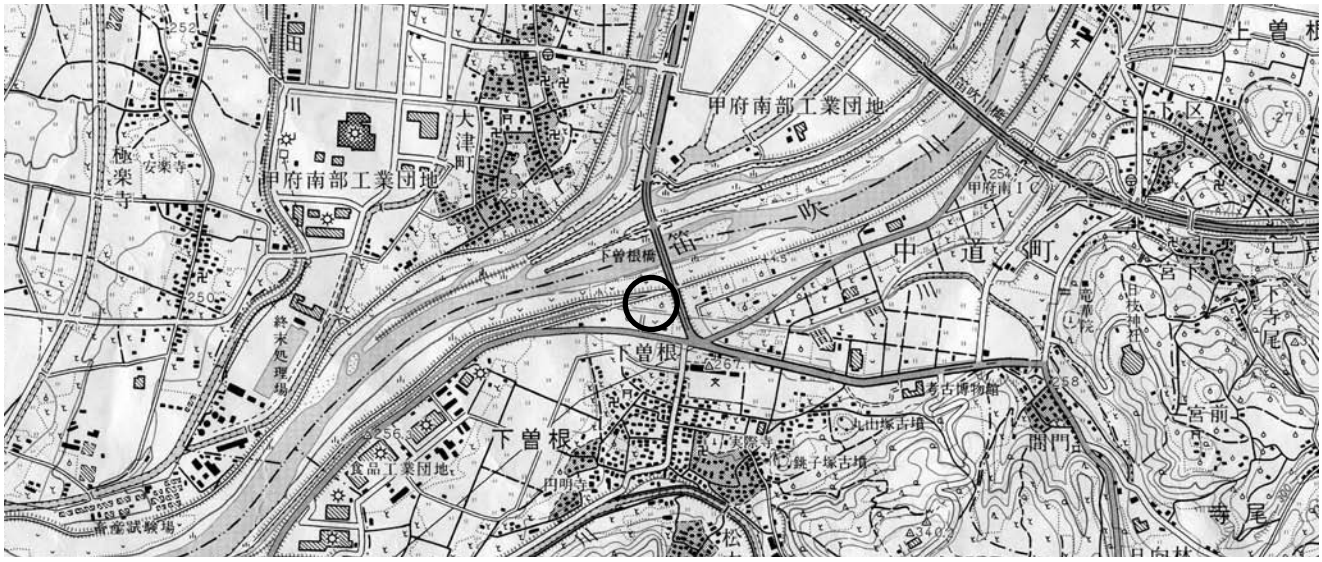
17　間門川河川改修事業　試掘《下曽根橋下遺跡》

所在地	甲府市下曽根町字一丁田 1526-1 外地内	調査期間	平成 21 年 11 月 10 日～ 12 日
担当者	小林健二	調査面積	約 277㎡

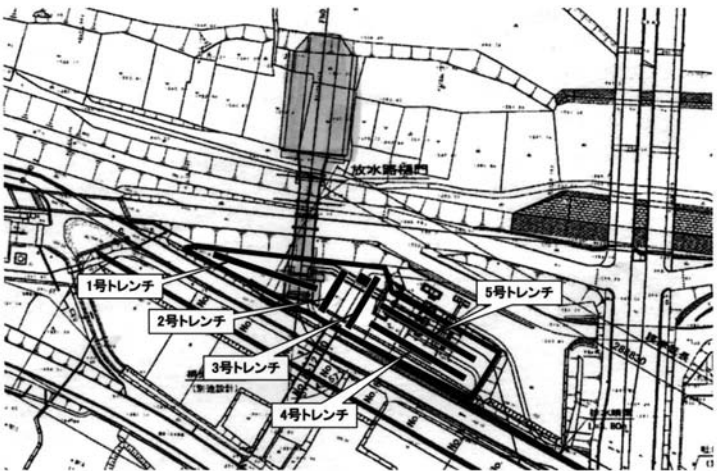
調査経緯及び事業内容と結果

治水対策として行われる事業予定地内は、下曽根橋の橋脚工事の際、古墳時代初頭の土器片が出土した周知の埋蔵文化財包蔵地である下曽根橋下遺跡に隣接する地域であることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、長さ 20 ～ 50 m、幅約 1.5 mのトレンチを 5 本設定し、試掘調査を実施した。

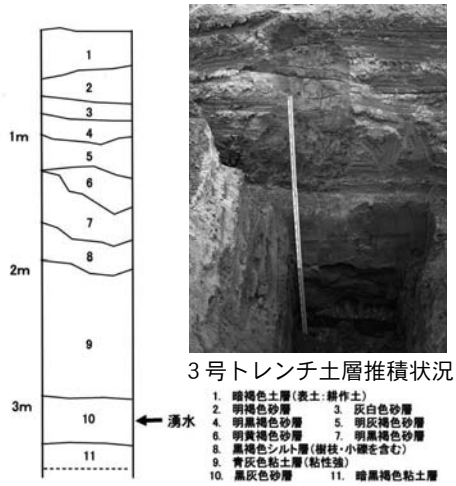
調査地は、笛吹川と間門川に挟まれた区域であり、基本土層はいずれのトレンチにおいても、地表下約 2 m前後までは笛吹川及び間門川の氾濫による砂層（2 ～ 7 層）や小礫や樹枝などの自然遺物を含んだシルト層（8 層）が厚く堆積している。これらの層の下に青灰色の粘土層（9 層）が確認された。安定した堆積とみられるものの、この層から遺構・遺物は全く確認されなかった。さらに、下層の堆積状況を確認するため、3 号トレンチを一部拡張し、地表下 3 m以下まで掘削を行ったところ、青灰色の粘土層（9 層）は約 1 m堆積しており、その下層に厚さ約 50㎝の砂層（10 層）を挟んで暗黒褐色の粘土層（11 層）が確認された。この層が包含層・文化層である可能性は否定できないものの、上層からの湧水もあり、遺構・遺物の確認はできなかったが、地表下 3.5 m前後に堆積していることから、工事に支障はないものと考えられる。



第 1 図　下曽根橋下遺跡



第 2 図　試掘トレンチ配置図



3 号トレンチ土層推積状況

1. 暗褐色土層（表土：耕作土）
2. 明褐色砂層
3. 灰白色砂層
4. 明黒褐色砂層
5. 明灰褐色砂層
6. 明黄褐色砂層
7. 明黒褐色砂層
8. 黒褐色シルト層（樹枝・小礫を含む）
9. 青灰色粘土層（粘性強）
10. 黒灰色砂層
11. 暗黒褐色粘土層

第 3 図　3 号トレンチ土層図

18　中部横断自動車道（南部区間）建設事業　試掘

所在地	南巨摩郡南部町本郷字東 429 地内	調査期間	平成 21 年 12 月 21 日～ 22 日
担当者	山本茂樹	調査面積	301.6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

今回の試掘調査箇所は、原間遺跡の南側で船山川との間にある水田地帯である。現地の状況から、河川の際については遺跡の存在はほとんどないものと思われ、山側に遺跡が存在するものと考えられた。

試掘調査溝は、№1 から№8 まで設定し、重機による掘削を行い、その後人力による遺構確認を実施した。

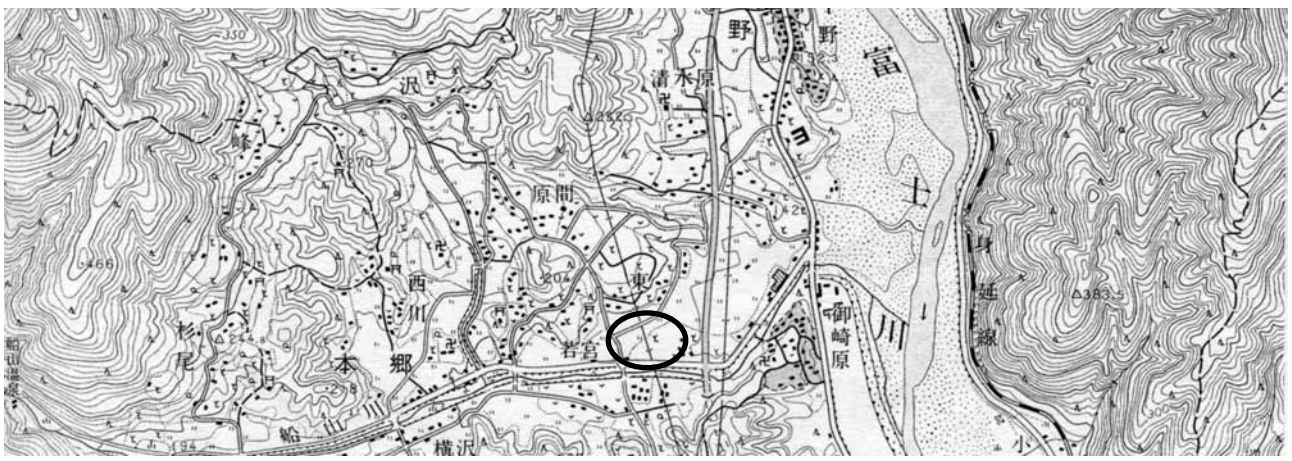
№1 では、幅 2.0m、長さ 27.60m で掘削し、溝の北側で約 1.20m の深さで湧水した。遺構・遺物は確認されなかった。　№2 では、幅 2.0m、長さ 26.70m で掘削。この地点では、2 層目が砂礫層で 2.30m 堆積しており、旧河道ではなかったかと思われる。　№3 では、幅 2.0m、長さ 27.10m、深さ約 1.10m で掘削。この試掘溝では、深さ 0.46m、5 層目で畦が確認された。全体の土層堆積は 1 層：耕作土、2 層：床土、3 層：小砂利層、4 層：砂層、5 層：灰茶褐色砂質粘土層、6 層：砂礫層である。遺物は確認されなかった。畦が確認されたことによりこの層で調査を行い、時期を決めていくこととした。最大掘削深度は 2.10m である。

№4 では、幅 1.90m、長さ 14.0m で掘削。最大掘削深度は北側で 2.40m、２枚目の床面は確認されなかった。

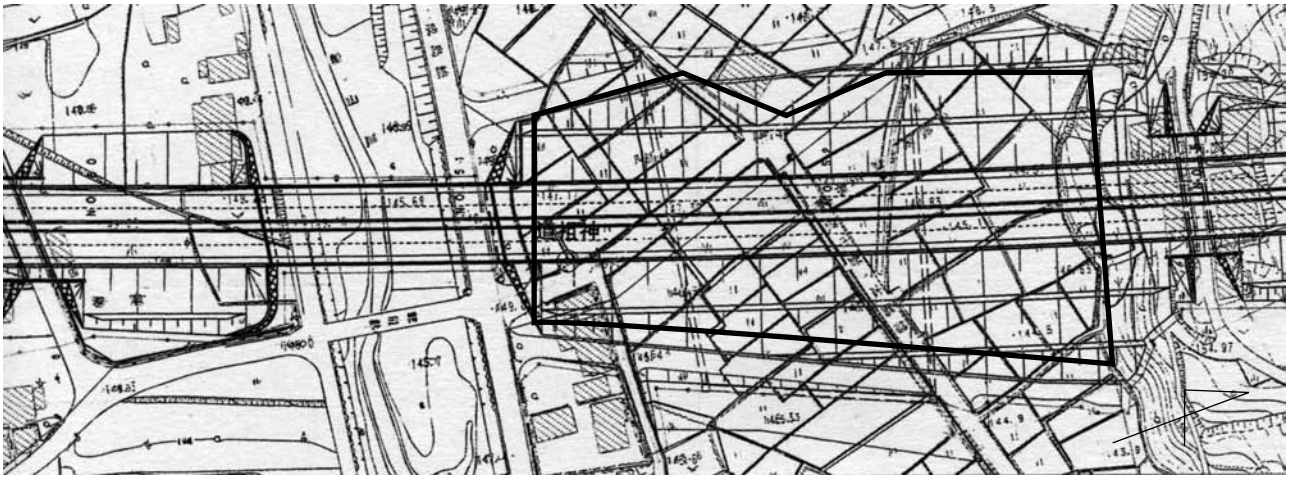
№5 では、幅 2.1m、長さ 16.0m で掘削。最大掘削深度は北側で 2.40m である。1 層：耕作土、2 層：砂礫層、３層：赤褐色砂質粘土層、4 層：砂礫層である。ここでは、深さ 0.8m、長さ 6.0m で赤褐色砂質粘土層が広がっており、南側では約 0.2m の段差が認められた。この段差の箇所に礫が据えられた状態で確認された。この一段低くなった粘土層の直上で磁器片が 1 点ではあるが出土した。この磁器片は、江戸末から明治時代のもので、粘土層の時期は明治時代の面と確定することができた。　№6 では、№5 の続きを明らかにするために、幅 1.9m、長さ 10.3m で掘削。№5 の粘土層は 6 ｍの幅で続いており、粘土層の上面は柔らかく堅くなかったことから水田面だったと思われる。粘土層の北側と南側は砂利層だったことから、洪水により粘土層が削られたものと想像される。№7 では、幅 1.9m、長さ 14.1m で掘削。最大掘削深度は南側で 2.50m である。この箇所も粘土層は認められるが、砂礫層の上に薄く乗っている程度のものであり、洪水により粘土が削られたものと思われる。

№8 では、幅 4.0m、長さ 4.0m と幅 2.0m、長さ 8.1m で掘削。最大掘削深度は東側で 2.50m である。特に西側では石列が南北方向で確認され、礫の一部が廃土内へ取り去られその礫を確認したところ凹みが存在し、その中に陶磁器（片口茶碗）が入っていた。この陶磁器は、どんなに古くとも江戸時代を下るものではない。

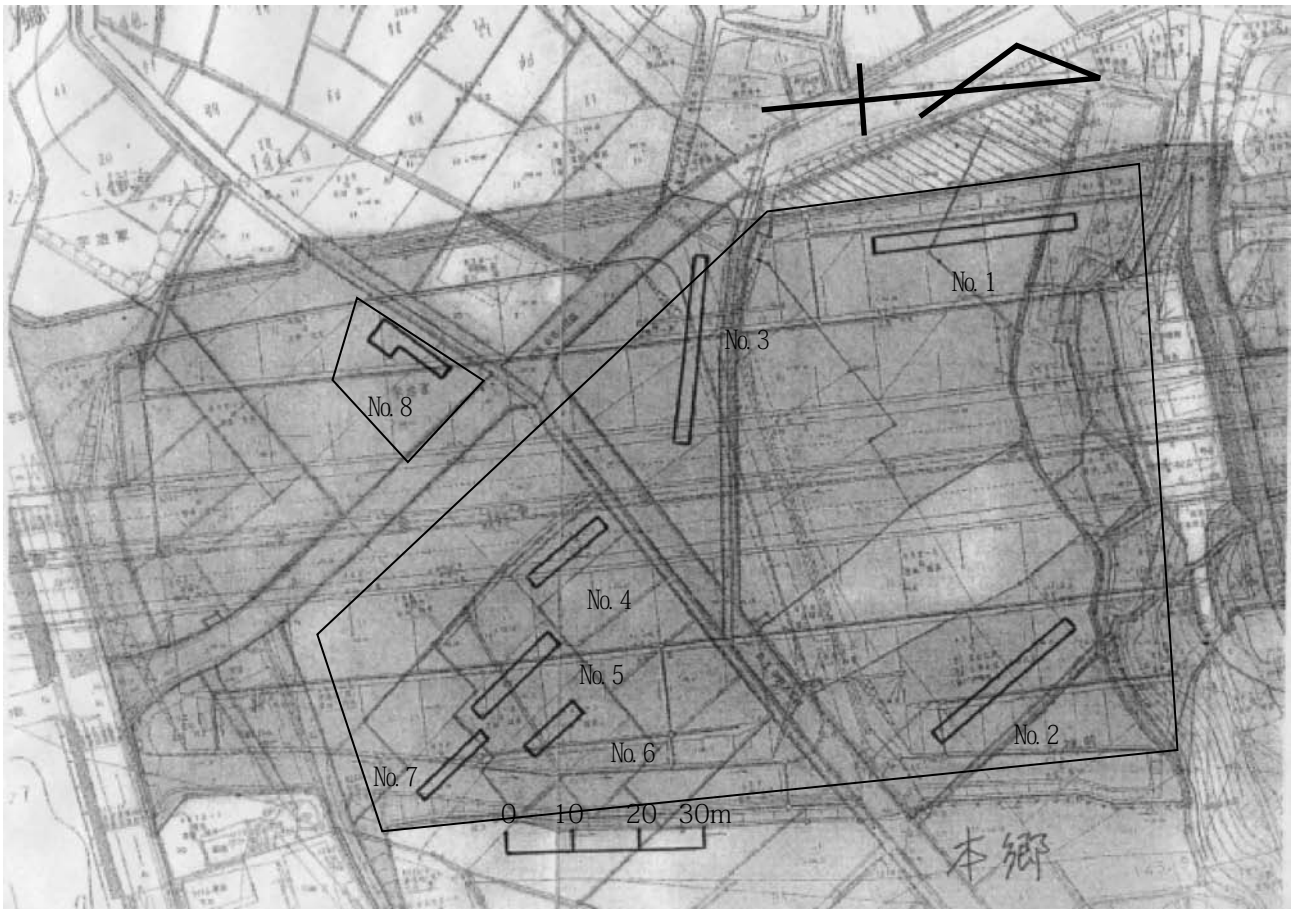
以上の結果から、遺構としては明治時代の水田面と石列、遺物としては江戸時代から明治時代の陶磁器片 2 点である。遺物の年代幅を広くしてあるが文化財保護法上（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項　第 3 条）、特段の措置を必要とする遺構等はなく、工事を着手しても支障はないものと思われる。



第 1 図　中部横断自動車道建設事業位置図



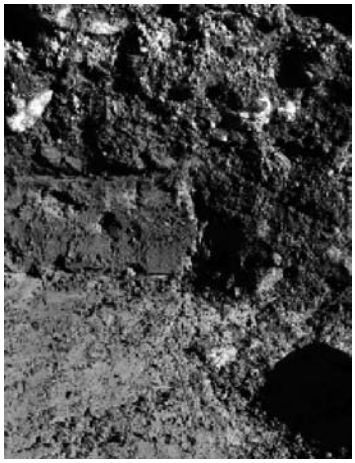
第 2 図　試掘調査箇所



第 3 図　試掘溝設定図

Ｎｏ３試掘溝の畦確認

Ｎｏ４遺構確認のため深掘り実施



Ｎｏ５粘土層が途中で途切れる

Ｎｏ５粘土層のすぐ脇から
磁器出土

Ｎｏ７の調査状況

Ｎｏ８で見つかった石列と土層堆積状況

Ｎｏ８石の凹みの中に陶磁器が入っていた。

Ｎｏ８石の凹みの中に入っていた陶磁器

Ｎｏ８の埋め戻し

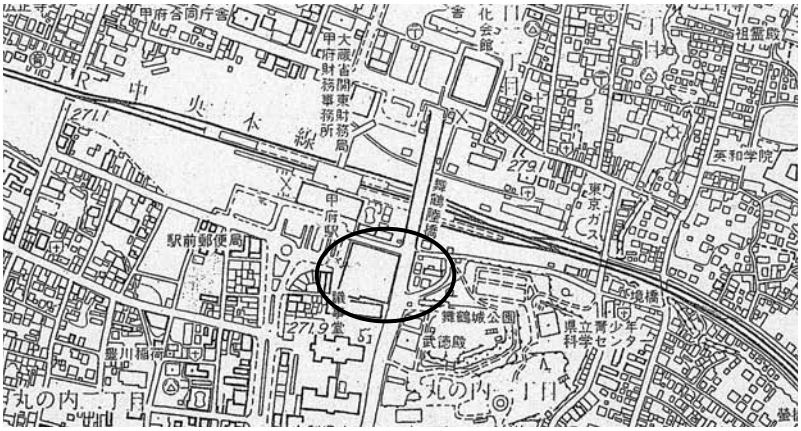
19　ガス管リフレッシュ事業　立会《甲府市丸の内地内》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成 21 年 1 月 16 日～ 26 日、2 月 10 日
担当者	野代幸和　長田隆志	調査面積	359㎡

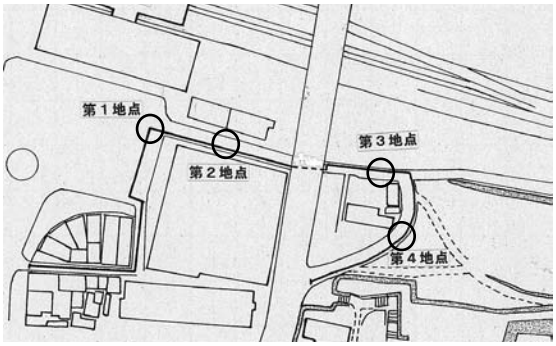
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は民間事業であるが、史跡甲府城跡隣接地での開発行為であることから甲府市教育委員会から情報提供を受け、学術文化財課との協議結果に基づき、情報共有の観点から市教委と共同立会調査を実施することとなった。本事業はガス管の敷設工事であり、掘削幅 700㎜、掘削深度 1000 ～ 1200㎜の範囲内での対応に終始したため地下遺構への影響は少なかったが、施工地点は甲府城の清水曲輪内であり、内堀などの遺構の存在が推定される地点であった。過去の調査状況としては、内松陰門付近において、市教委により立会調査を行ったところ石垣の石材が多数確認された。また、隣接するホテル駐車場内において瓦溜層が発見された経過がある。

全体的な工程としては 2 月 10 日に甲府駅南口ロータリー、以降の日程で東側へ敷設する際に立会を行った。調査の結果、遺構として第 1 地点において一の堀石垣、第 2 地点で内堀の裏栗層、第 3 地点で内堀の落ち込み、第 4 地点で内堀の落ち込みが認められ、石垣については現況での保存を要請した。第 4 地点で堀内に戦災による焼けた瓦が多数投棄されていたが、甲府城に関係する遺物については全く認められなかった。



第 1 地点石垣確認地点



第 2 図　調査ならびに遺構確認地点

・・・・アスファルト舗装・・・300mm
・・・・盛土・・・・・・・・・・500mm
・・・・砂質暗褐色土・・・・・400mm
・・・・茶褐色土・・・・・・・100mm
・・・・石垣

第 1 地点基本層序

第 3 地点堀確認状況

第 4 地点戦災瓦出土状況

掘削状況

20　御座田三番堤補修事業　立会《大月遺跡》

所在地	韮崎市龍岡町地先	調査期間	平成 21 年1月 20 日
担当者	保坂和博・大木丈夫	調査面積	43㎡

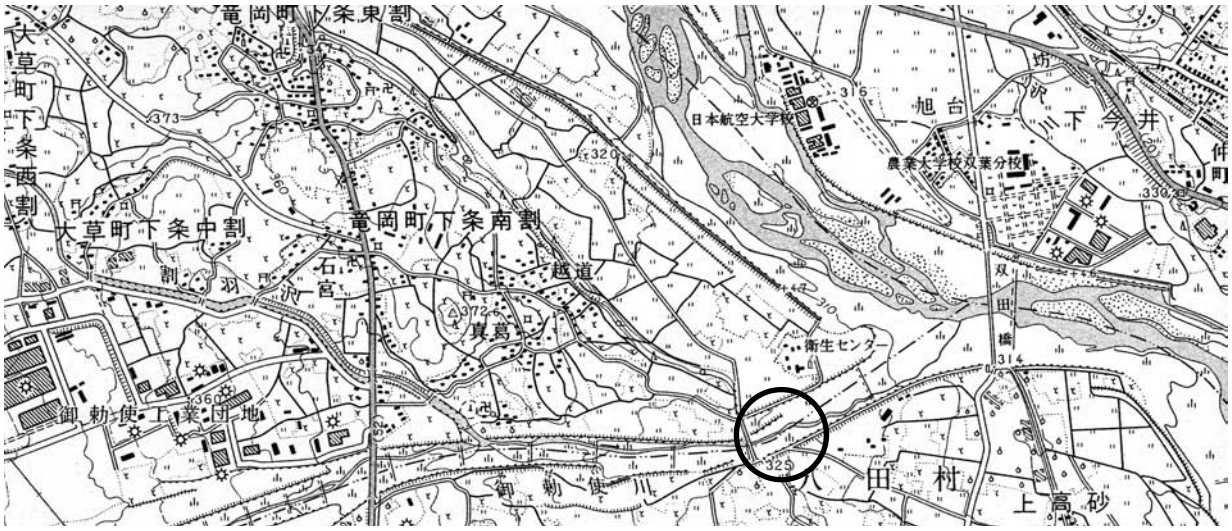
調査経緯及び事業内容と結果

平成 20 年 12 月 22 日に実施した現地協議の結果に基づき、韮崎市龍岡町地先の御座田三番堤で立会調査を実施した。

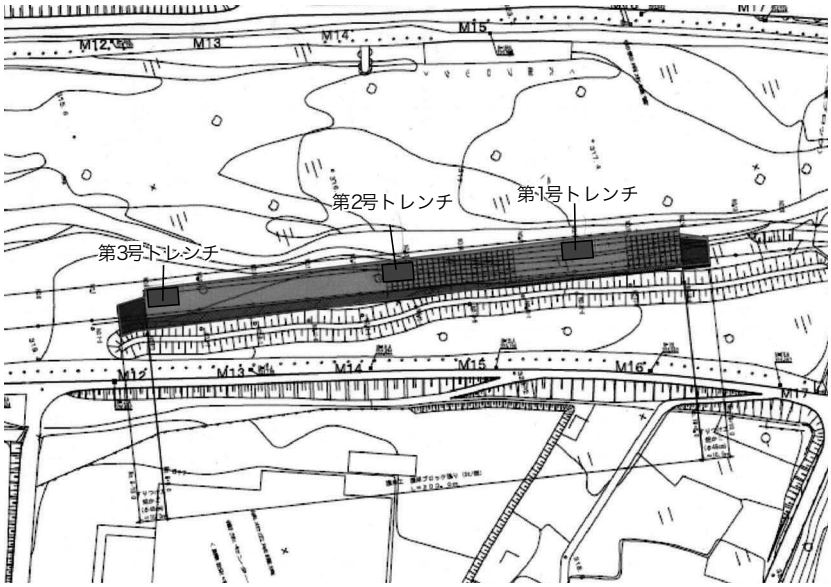
本事業は、現況の堤防に盛り土をする護岸工事計画である。立会調査は、堤防の清掃が終了後の平成 21 年 1 月 20 日に護岸工事される地点において実施した。

最初、現在の堤防の状況を把握するため、記録写真を撮影した。清掃後の現状からは、旧堤防の前衛に設置された新しい堤防の表面の積み石が崩落していることが確認された。護岸工事のため、大型ブロック張護岸の設置予定箇所 3 地点を重機により掘削を行った。3 地点とも、土層堆積状況は、地表から 140 ～ 160cm は河川堆積層であり、その下は地山層で湧水が確認された。

立会調査の結果、河川堆積層以下は地山となり、堤防などの遺構は確認できず、遺物もなかったことから、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても支障はない旨を報告した。



第１図　御座田三番堤補修事業位置図



第２図　立会調査位置図

１号トレンチ土層堆積状況

２号トレンチ土層堆積状況

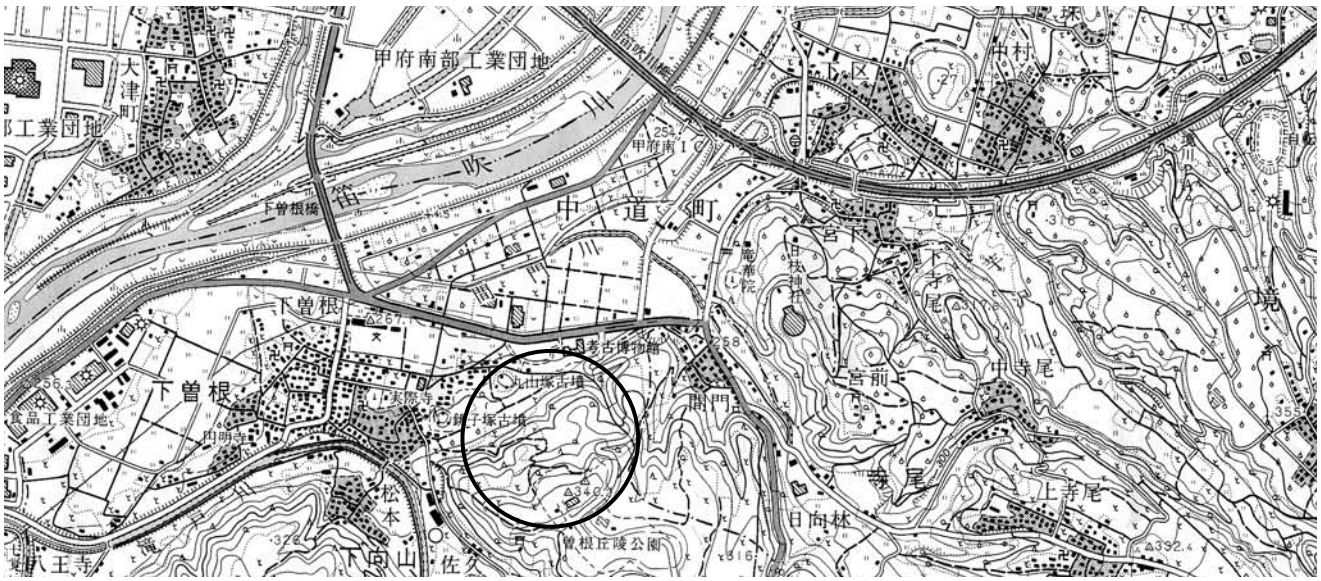
21　風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業に伴う立会《甲府市下曽根町地内》

所在地	甲府市下曽根町字岩清水 899 外地内	調査期間	平成 21 年1月 23 日
担当者	山本茂樹	調査面積	15㎡

調査経緯及び事業内容と結果

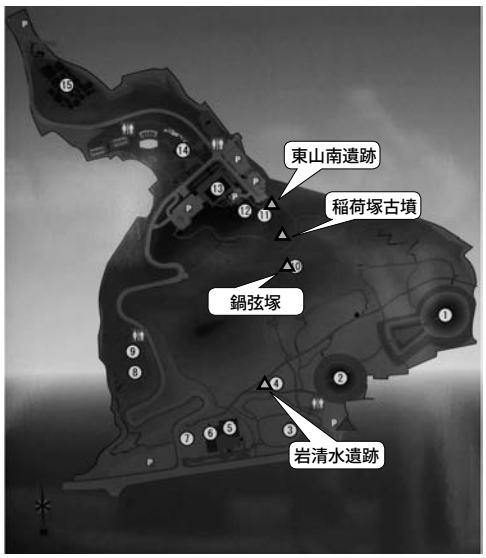
風土記の丘は、国指定史跡甲斐銚子塚古墳附丸山塚古墳を含め、多くの遺跡が点在する史跡公園として整備が進められてきた。公園整備が始まって以来十数年がたち、園内の看板などの老朽化が激しく、その改修・撤去作業が進められている。その一連の事業として、風土記の丘公園に埋設保存されている遺跡で、解説版が設置されていない４カ所を対象に、新しく看板を設置する工事が行われ、今回はその工事に伴う立ち会いである。

対象となったのは、案内板に記された東山南遺跡・稲荷塚古墳・鍋弦塚・岩清水遺跡の４箇所である。看板については、60㎝× 60㎝の盤面に２本の脚が両端につくタイプで、基礎部分の掘削は、長さ 140㎝×幅 60㎝×深さ 50㎝である。調査の結果、岩清水遺跡・東山南遺跡では、整備時の盛土内であり、遺構・遺物は確認されなかった。稲荷塚古墳では、遊歩道設置時に掘削が、既に行われており、掘削面で遺構確認をおこなったが、遺構・遺物は確認されなかった。鍋弦塚では、掘削面で遺構確認を行なったが、遺構・遺物は確認されなかった。



第１図　風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業位置図

岩清水遺跡看板設置状況



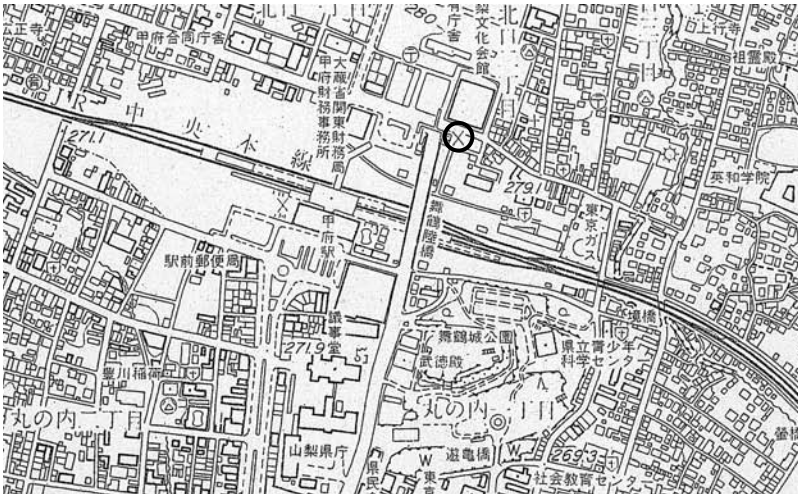
第２図　看板設置箇所位置図

22　甲府駅北口交番解体事業　立会《甲府市北口地内》

所在地	甲府市北口２丁目地内	調査期間	平成 21 年２月４日、16 日
担当者	野代幸和　長田隆志	調査面積	15㎡

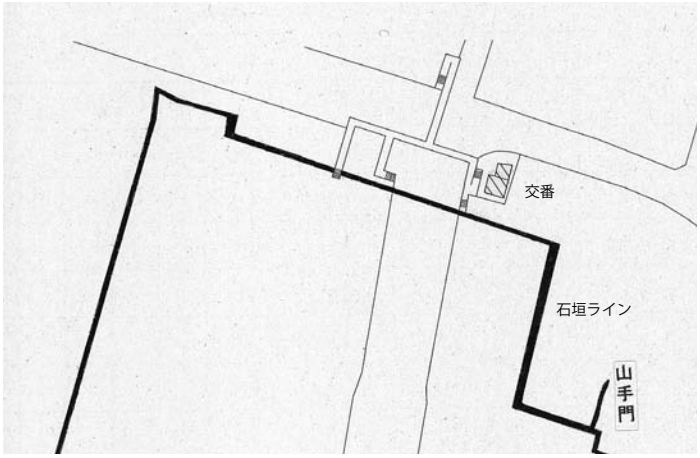
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受けて当センターで実施した。協議内容については、既存建物の基礎ならびに配管除去作業時において調査を実施することを確認した。当該地点は過去の調査実績から周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の堀内に位置しており、南側には堀の石垣が存在していた可能性が推定された。本事業は解体工事であり、基礎設置部分の既掘範囲内での対応に終始したため地下遺構へは影響が無かったが、施工地点は県管理地内であると共に史跡甲府城関連遺構の存在が推定される地点であり注意が必要である。今回隣接地において調査実績のある市教育委員会にも連絡し、情報の共有化を図った。過去の調査状況としては、昨年隣接する舞鶴陸橋の歩道拡幅工事において、当センターにより立会調査を行ったところ、石垣に伴う栗石の充填層が確認された経過がある。また本地点隣接地の山手門周辺ならびに清水曲輪一帯の調査実績のある市教育委員会からの情報提供により、本地点は堀内に位置していることが判明した。全体的な工程としては２月４日に水道管切り回し作業に伴う立会を、また２月 16 日に基礎抜き取り作業に伴う立会を行った。調査の結果、最大掘削深度は最大 1000㎜程度（遺構確認面は 1700㎜）であり、戦災による焼けた瓦や旧国鉄関連施設の貯炭場に由来するコークスが多数発見されたが、甲府城に関係する遺構・遺物については全く認められなかった。

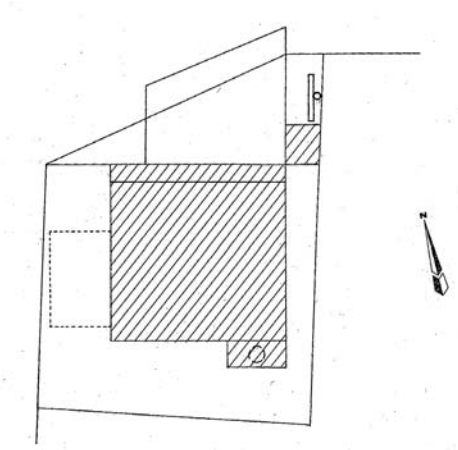


第１図　北口交番解体事業位置図

基礎抜き取り状況



第２図　甲府城相関図



第３図　調査地点図

23　入山沢通常砂防建設事業　立会《金山金山遺跡》

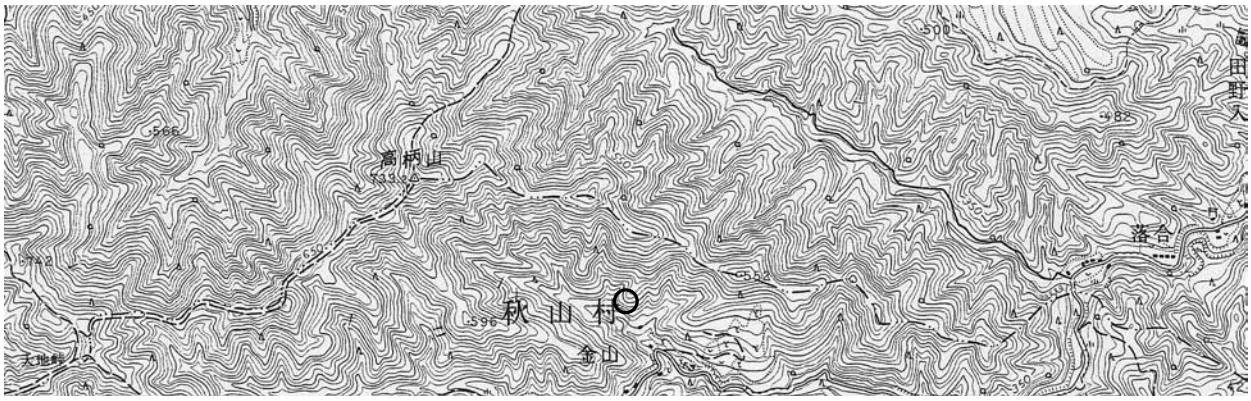
所在地	上野原市秋山字金山外地内	調査期間	平成 21 年 4 月 22 日、5 月 20 日
担当者	高野玄明・保坂和博	調査面積	11㎡

調査経緯及び事業内容と結果

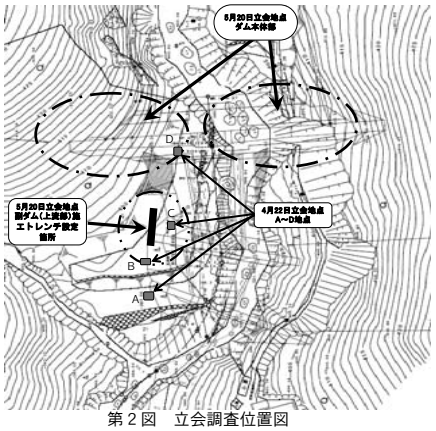
本事業は、金山川入山沢の通常砂防事業で事業予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である金山金山遺跡が所在している。このため、平成 18 年度に 2 地区で試掘調査が実施され、この結果を受けて平成 20 年 1 月 10 日に現地協議が行われ、「第 2 地区（石垣で保護された平坦地）の石垣内部の遺物確認については、掘削時の立会として確認すること」とされ、今回の立会調査に至った。

4 月 22 日に掘削が行われるとの連絡を受け現地に赴いたが、掘削の開始に及んでいなかったため、第 2 地区内の石垣の工事に支障を及ぼさない地点にテストピット 4 ヵ所を設け、遺物確認を行った。いずれの地点においても遺物・遺構とも確認されず、土層の断面観察では平成 18 年度の試掘調査結果と同様に水田の耕作土とその下の床土と考えられる堆積層が認められた。工事に伴う掘削時の立会調査については、再度調整を図り対応することとした。

5 月 20 日にダム本体工事に伴う立会調査を実施し、ダム設置箇所の山裾部分と付随工事に係るテラス部分にトレンチを設定し、土層断面の確認や遺物の確認を行った。ダム本体工事（山裾部）については、岩盤が露出しているなど、問題ない無いものと考えられる。ダム下部（河床）に関しても現況より約 5 m掘削を行うとのことであるが、現状でも岩盤が露出していることから、問題ないものと考えられ、この状況が変わらないのであれば事務所からの写真等で確認する等とし、必要であれば立会調査を行うこととした。副ダム（上流）が施工されるテラス部分について、幅 1.0 m×長さ 5.0 m×深さ 1.5 mを設定し、確認を行った。その結果、地表約 1.10 mで岩盤に到達した。その上部については、暗茶褐色粘土に 0.05 m～ 1.0 m程の礫が多く混入しており、遺構・遺物の確認には至らなかった。



第 1 図　入山沢通常砂防建設事業　位置図



第 2 図　立会調査位置図

A 地点土層断面

C 地点土層断面

ダム本体部岩盤露出状況右部分

副ダム（上流部）施工箇所トレンチ断面確認状況

24　県庁構内水道管敷設事業　立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成 21 年 4 月 25 日
担当者	高野玄明	調査面積	7.6㎡

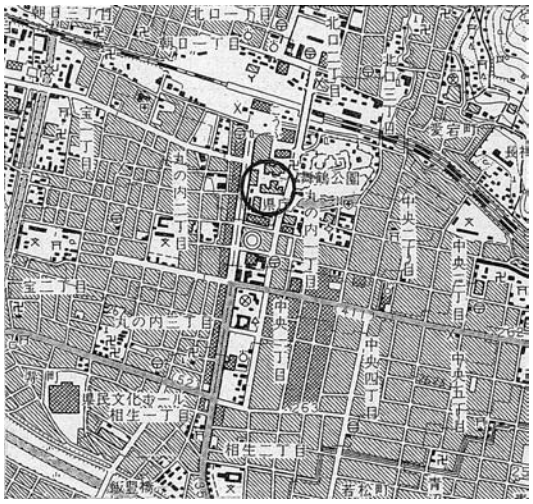
調査経緯及び事業内容と結果

調査箇所周辺は、過去の調査実績から石垣や石積みが確認されている。今回の調査においても、確認される可能性が高い。旧甲府城内楽屋曲輪石垣の地点にあたることから、学術文化財課より連絡があり、埋蔵文化財センターで対応し立会調査を行うこととなった。

今回の給水管埋設に伴う掘削規模は、幅 0.5 m×深さ 0.5 m（当初 0.8 m）×長さ 15.2 mの範囲で掘削を行った。

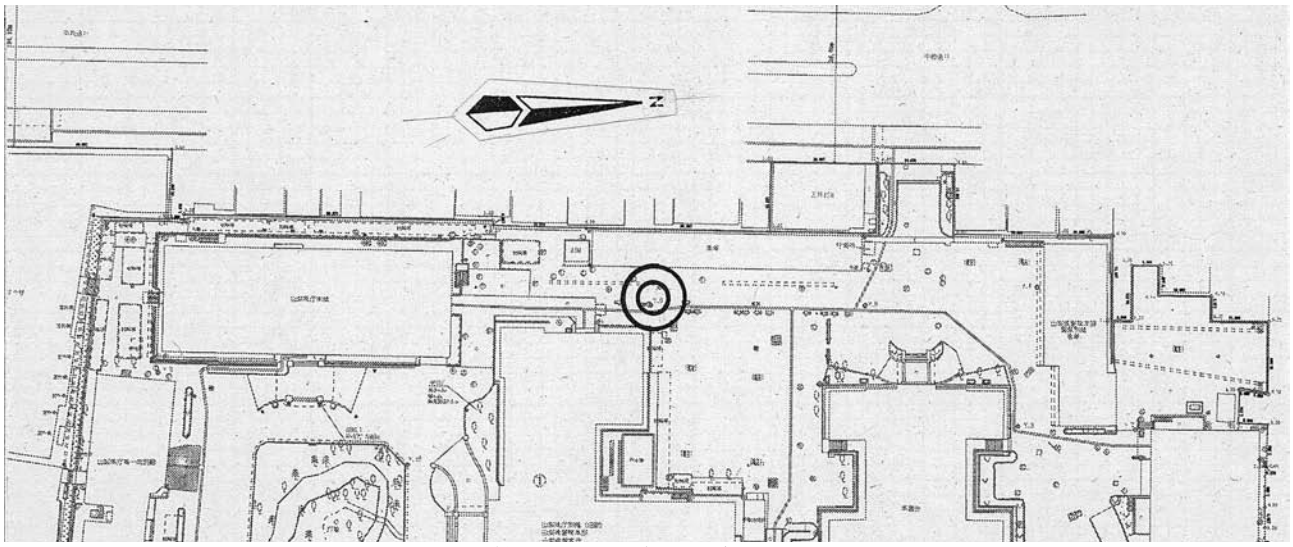
車庫入り口付近については、アスファルト除去後、砕石層が 0.5 m以上埋設されており、別館周辺において 0.5 m下げたところでも暗褐色粘土質砕石層が確認される等、掘削範囲内における遺構・遺物については全く認められなかった。

今回の調査では、石垣などの遺構の検出には至らなかったものの、地下埋設物の影響から 0.8 mから 0.5 mと浅くなったことにより、石垣などの検出には至らなかったとも考えられる。



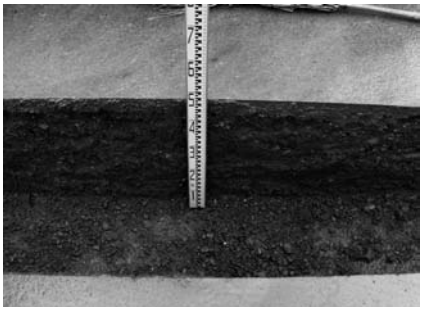
第 1 図　県庁溝内水道管敷設事業位置図

このことから、今後、周辺部における掘削を伴う工事には引き続き注意が必要である。



第 2 図　立会調査位置図

調査状況


掘削土層断面

25　流域下水道敷設事業　立会《南アルプス市鏡中條地内》

所在地	南アルプス市鏡中條地内	調査期間	平成 21 年 6 月 4 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	10.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

南アルプス市鏡中條地内において、下水道管敷設工事が計画されている。これについて、5 月 14 日に現地協議を行っており、施工に関しては埋蔵文化財包蔵地付近において、立会調査が必要であることを釜無川流域下水道事務所及び施工業者に伝えた。

掘削は、下水道埋設部分深さ約 3.20 ｍの掘り下げを行い、その部分の土層断面の確認及び遺物の確認を行った。

土層断面はアスファルト下部は、地盤補強のため砕石層とコンクリートが敷設されていた。

その下部には暗褐色粘質土（小礫含む）、暗黄褐色粘質土（小礫含む）、黄褐色粘質土が見られた。

掘削した断面観察では、遺構や遺物の確認はできなかった。

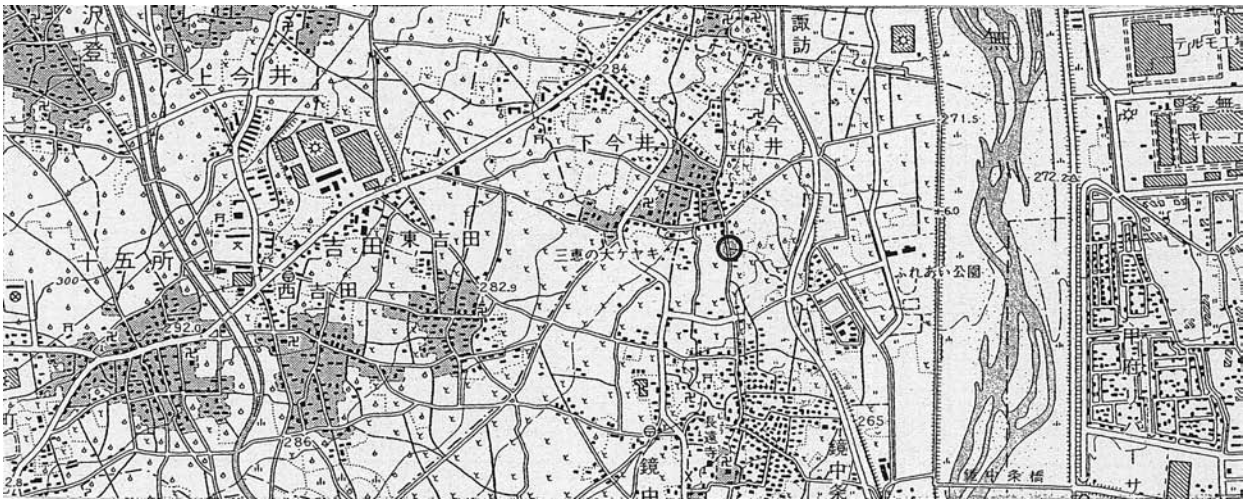
今回の施工箇所は、埋蔵文化財包蔵地であるが、今回の立会調査でも遺構や遺物の確認はできなっかった。

以前、この道路建設時にも、南アルプス市教育委員会により試掘調査が行われているが、遺構や遺物の検出はされていない。

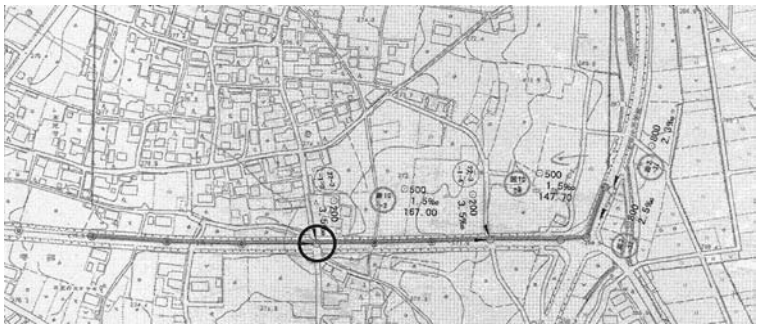
このため、周辺部における施工については、埋蔵文化財の対応は必要ないものと考えられる。

しかし、下水道工事が今後西側に延びるが、周知の埋蔵文化財包蔵地が幾つかかかるため、今後、施工時期の確認など埋蔵文化財の対応は必要になってくる。

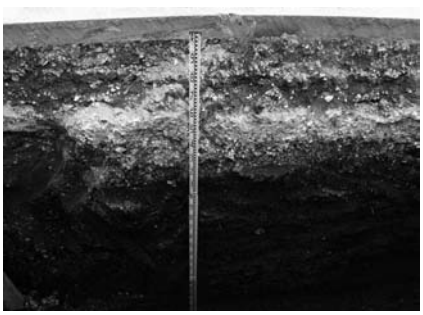
このため、施工の際には、再度、連絡を頂くよう指示した。



第 1 図　流域下水道敷設事業（南アルプス市地内）位置図



第 2 図　立会調査位置図



土層推積状況

26　県庁舎耐震化等整備事業　立会《甲府城跡・甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目（県民情報プラザ周辺）地内	調査期間	平成 21 年 6 月 12 日、7 月 6 日～ 7 日
担当者	保坂和博・田口明子	調査面積	0.22㎡

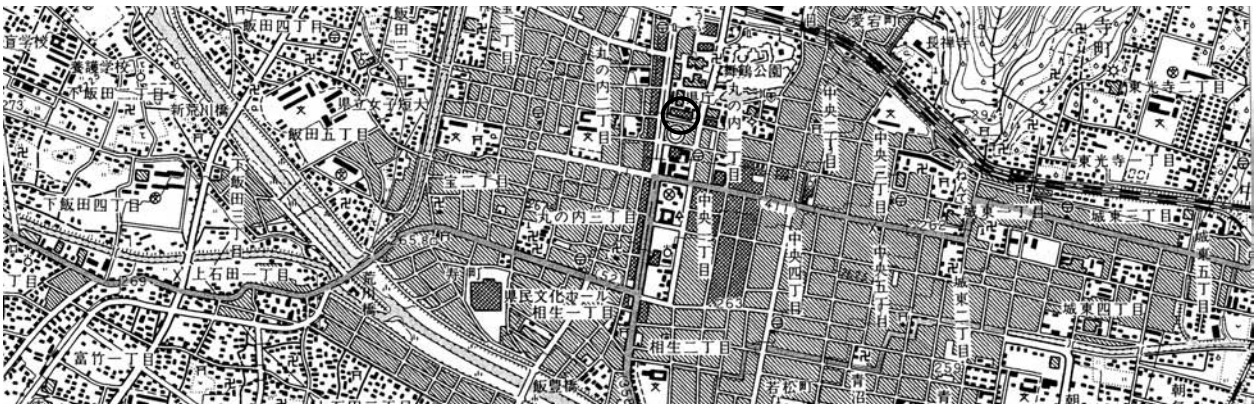
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県庁舎耐震化等事業に先立ち、総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受け、当センターで実施した。今回の立会調査は、地下埋設物有無確認のためのボーリング調査に伴い、コンクリートカッター等で表層を取り除いた後、手掘りでNo.Ａ～Ｄの４箇所において実施した。調査は、工事工程に合わせ２回に分けて行った。

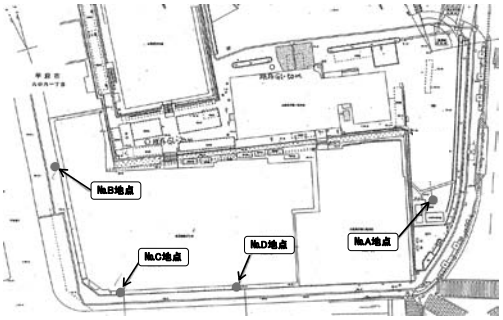
第１回目（6 月 12 日）の立会は、No.Ａで約 0.2 ｍ× 0.2 ｍ×深さ 1.05 ｍの掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。現地表（アスファルト）下は、約 25㎝の砕石層、約 55㎝の砕石層（多量の瓦出土）、約 20㎝の暗褐色（7.5YR3/3）粘質土層（小量の瓦出土）が確認された。瓦検出層は、平成 20 年 6 月に行われた本地点北側の試掘調査で確認された瓦溜層と同一と考えられた。

第２回目（7 月 6 日～ 7 日）の立会は、No.Ｂ～No.Ｄで実施した。No.Ｂは、約 0.35 ｍ× 0.25 ｍ×深さ 1.3 ｍ、現地表から 0.185 ｍまで、タイル･コンクリート等があり、その下は現地表から 1.2 ｍまでが盛土層、盛土層下は、自然堆積と思われる粘土質砂礫層であった。盛土層からは、磁器片が１点出土した。No.Ｃは、約 0.2 ｍ× 0.2 ｍの範囲を 0.35 ｍまで、コンクリートカッター等で掘削を行った。コンクリート層がさらに下に続くために、後日掘削を再び行うとのことであった。No.Ｄは、約 0.35 ｍ× 0.15 ｍの範囲で、現地表から約 1.5 ｍまで掘り下げた。現地表下約 0.177 ｍまで、タイル･コンクリート等があり、その下は約 0.3 ｍの空洞、空洞下約 0.3 ｍがコンクリート等の混入した攪乱層、ビニール紐の混入した砂層が確認された。

今回の立会地点では、地下埋設物は確認されなかったが庁舎整備に必要な開発範囲予定地に位置していることから今後開発行為が行われる場合には、事前に埋蔵文化財の発掘調査等適切な保存措置を行う必要がある。

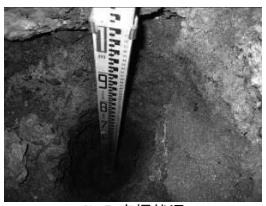


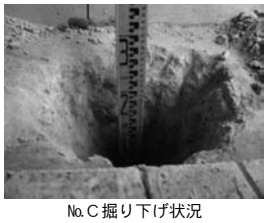
第１図　県庁舎耐震化等整備事業位置図

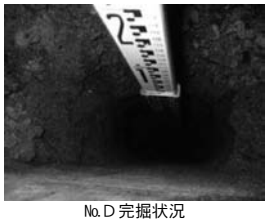


第２図　試掘トレンチ配置図

No.Ａ完掘状況


No.Ｂ完掘状況


No.Ｃ掘り下げ状況


No.Ｄ完掘状況

27　風土記の丘･曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業　立会《上の平遺跡》

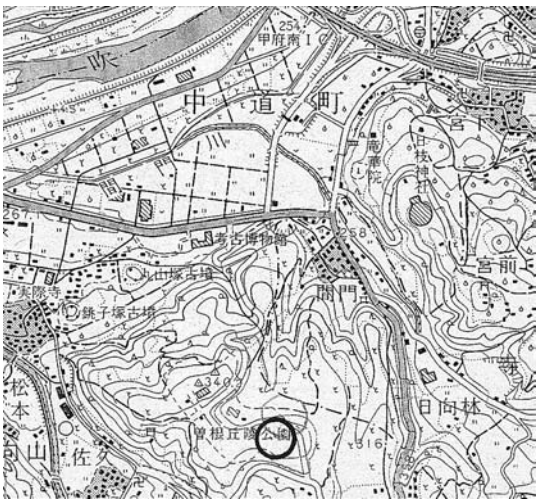
所在地	甲府市下向山地内（風土記の丘･曽根丘陵公園内）	調査期間	平成 21 年 6 月 22 日
担当者	高野玄明	調査面積	4㎡

調査経緯及び事業内容と結果

方形周溝墓広場の老朽化による展望台改築に伴い、5 月 15 日に、中北建設部、公園公社、学術文化財課、埋文センターにおいて、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、6 月 1 日には、既設の展望台の基礎部分周辺に試掘調査を行い、盛り土の確認と基礎の深さの確認を行っている。

この結果、正確な盛り土の深さや、保護ネットの確認はできなかったが、基礎のステコンの部分まで確認た。

この試掘調査の結果を踏まえ、新設の展望台については、同じ場所に同規模の展望台の復元という形で、実施することとなった。



第１図　風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業位置図

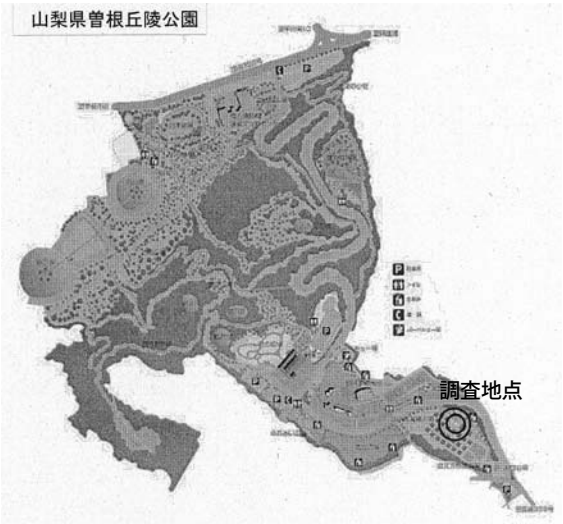
調査は、建替に伴う基礎撤去であり、既に本体部の解体作業が行われており、基礎部分を残すだけとなり、調査は、南側のコーナー部分と、北側コーナーの中間の基礎についてのみ立会調査をおこなうこととなった。

その結果、南側コーナー部分では、試掘調査のデータどおり、深さ 1.2 m程で基礎のステコンが確認された。コーナー基礎は 0.85 m四方で、厚さ 0.85 m（重さ 1.8t）で、中間部分は 0.60 m四方、厚さ 0.85 mの頑丈な基礎である。

さらに、一部掘り下げを行ったが、安定した地山層が確認され、中間地点についても状況は同じである。試掘結果報告に記載したとおり、基礎最下部が 1.2 m程度であり、地山層まで旧展望台基礎が掘り込まれていることから、基礎最下部より 30㎝保護層を設け、施工するよう指示し了承され、同じ箇所に同規模の展望台を復元することになっており、新たな用地へ掘削は及ばない。

このことから、埋蔵文化財の保護措置の必要はなく、工事を進めることになった。

さらには、北側（道路側）は傾斜し低くなっていることから、盛り土を 30㎝程度施したのち、施工するとのことである。



第２図　曽根丘陵公園全体図

基礎確認状況

基礎撤去状況

28　県立笛吹高等学校給水管敷設事業　立会《石和高校周辺遺跡》

所在地	笛吹市石和町市部3地内	調査期間	平成 21 年 6 月 26 日
担当者	高野玄明	調査面積	4㎡

調査経緯及び事業内容と結果

石和高校と園芸高校の合併に伴い、旧石和高校敷地内に給水管の埋設工事が計画され、当概地は「石和高校周辺遺跡」として、本調査や試掘調査を行っている。

今回は幅 0.8 m、深さ約 3.0 mの範囲で高校敷地内を掘削することから立会調査を実施した。

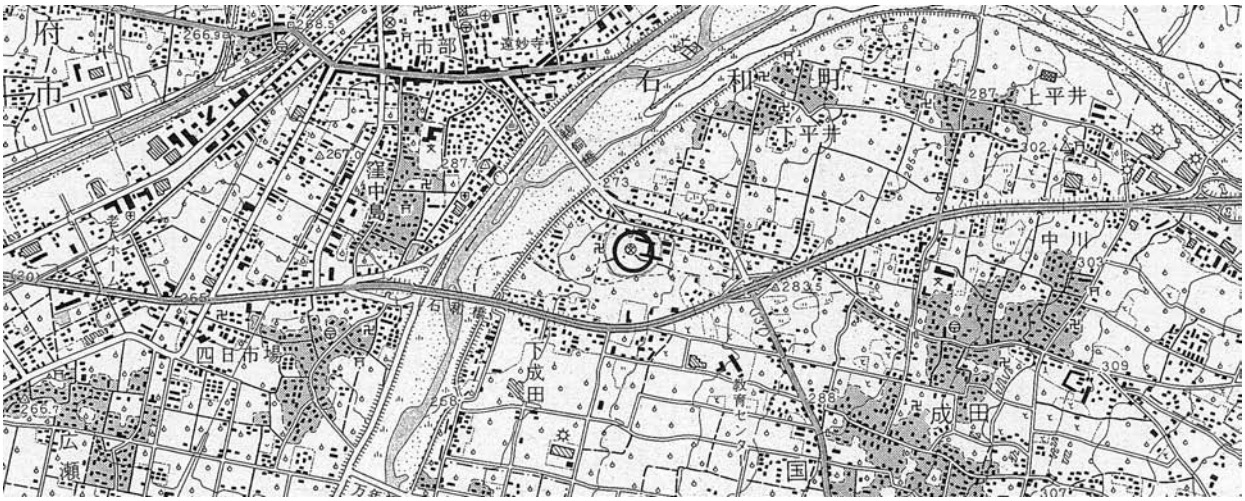
調査は、別添図の掘削が行われる範囲のやや南側の部分、約 3.0 m程掘削し給水管を埋設するが、土砂の崩落をさけるため、長さ 2.0 m～ 3.0 m、深さ 2.0 m程で矢板を埋め込んだあと、さらに 1.0 m掘り下げる作業を繰り返している。

このため、矢板を打ち込む直前の段階で、土層の堆積状況や遺物の確認を行った。

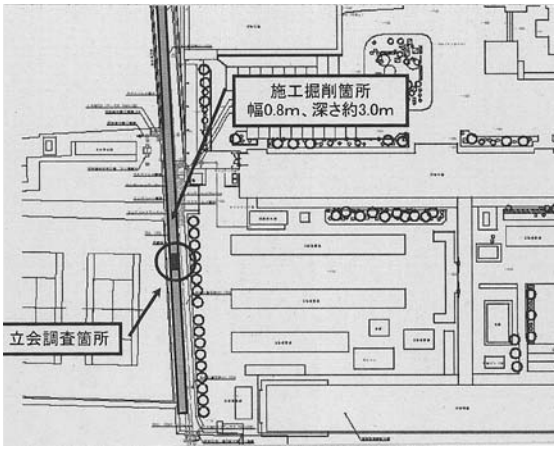
土層は、1 層＝グラウンド造成面、2 層＝砕石層、3 層＝暗褐色粘質土、4 層＝黄褐色砂質土、5 層＝赤褐色砂質土、6 層＝黒色粘質土が見られた。

掘削したトレンチ内部の確認はできなかったものの、遺構や遺物の確認はできなかった。今回の調査では、ほんの一部での調査であったが、施工業者によると此まで掘削した状況は黒色粘質土が堆積していたとのことである。

今回の、事業地内では遺構や遺物の確認はできなかったが、今後、周辺の掘削を伴う開発工事がある場合は、引き続き注意が必要である。



第 1 図　県立笛吹高等学校給水管敷設事業位置図



第 2 図　立会調査位置図

事業地近景

掘削状況

29　流域下水道敷設事業　立会《富士吉田市新倉地内》

所在地	富士吉田市新倉地内	調査期間	平成 21 年 6 月 29 日
担当者	高野玄明・小林万里子	調査面積	24㎡

調査経緯及び事業内容と結果

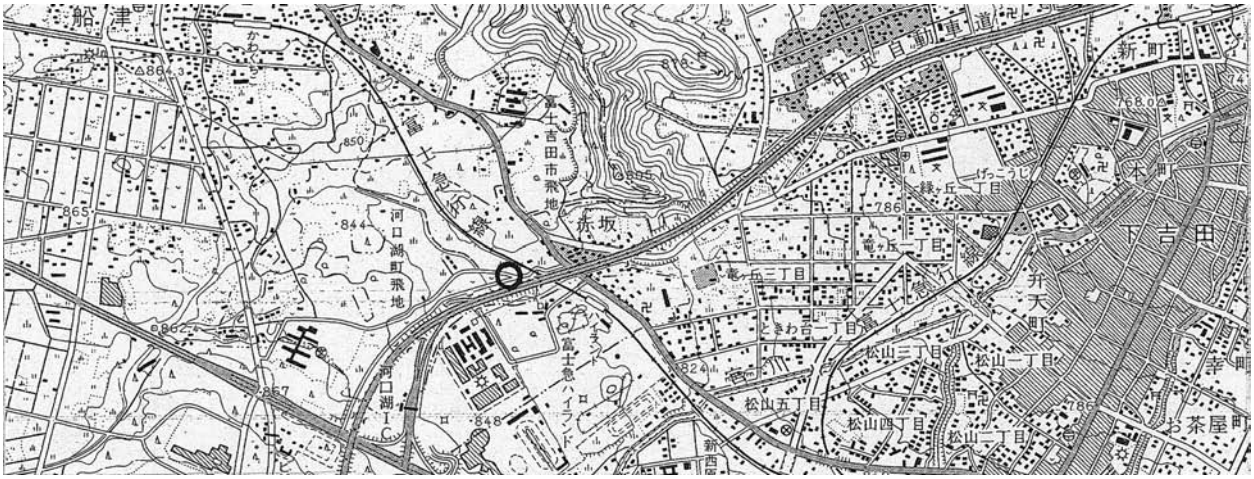
流域下水道工事が富士吉田市新倉地内において工事が計画され、今回の箇所付近に「赤坂塁跡」があったとされる箇所であることから、4 月 13 日には現地に於いて埋蔵文化財の取り扱いの協議を行い、事業内容を勘案して、立会調査を実施することとなった。

調査は、別添図の箇所において、下水道管の入り口部（竪坑）を地表下約 9.0 m掘削し、地中 8.0 ～ 9.0 mの深さでトンネル工法により東側へ進んで、下水道管を敷設するものである。

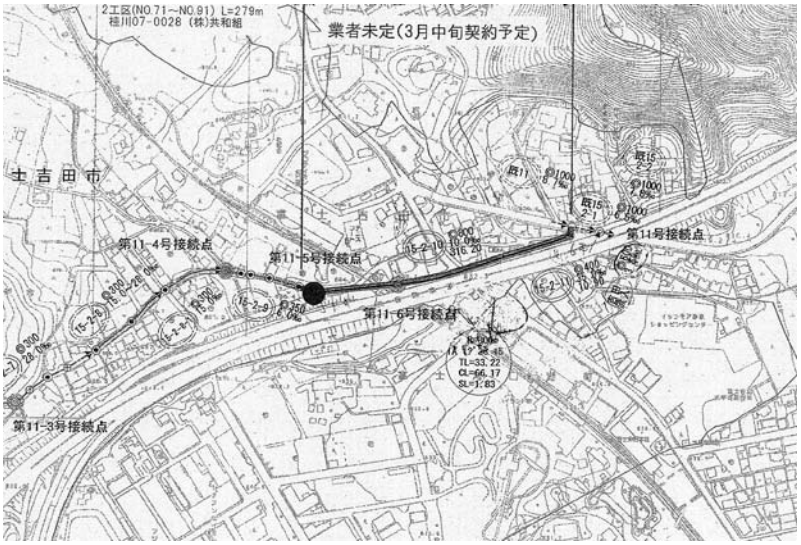
このため、今回、入り口の竪坑部分についての立会調査を行なうものであるが、既に地表下 9.0 m程掘削が行われており、竪坑内部は既に施工されており、直接土層の断面観察はできなかった。

しかし、掘削した廃土を確認すると、地表下 2.0 m程まで測道建設により掘削され安定した土層は確認できなかった。

それ以下は、赤褐色の火山灰が堆積しており石垣を構築していたような、石材は確認できなかった。



第 1 図　流域下水道敷設事業位置図



第 2 図　立会調査位置図

竪堀掘削状況

30　県庁構内 ATM 基礎撤去事業　立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成 21 年 7 月 19 日
担当者	高野玄明	調査面積	25㎡

調査経緯及び事業内容と結果

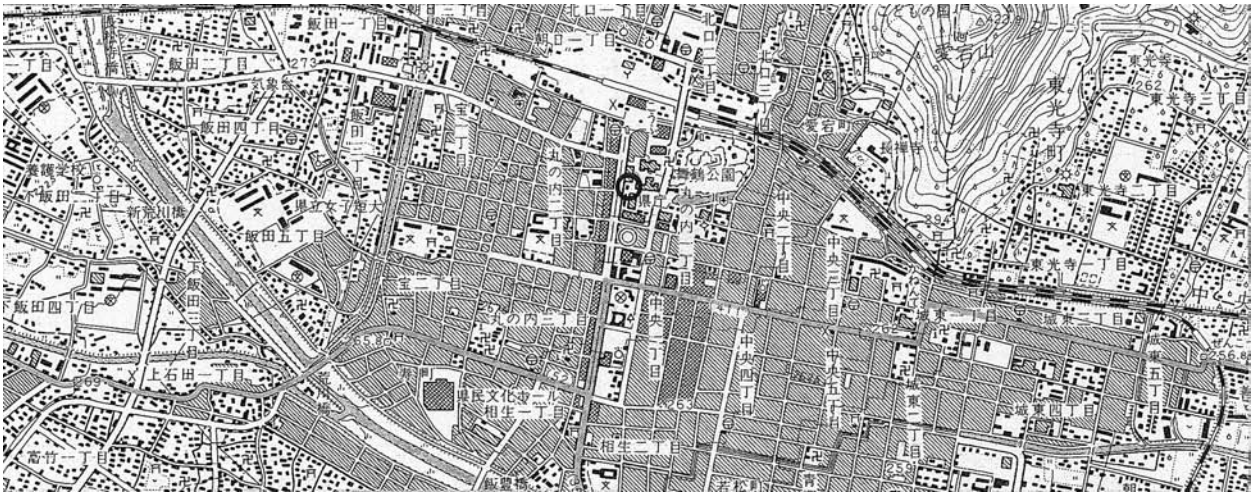
調査箇所周辺は、過去の調査実績から石垣や石積みが確認されている。本地点は、過去の調査箇所の延長上にあたることから、ＡＴＭブースの基礎撤去について立会調査を実施する事となった。

立会調査は、上物に関して既に解体済であり、基礎部分の撤去について実施した。

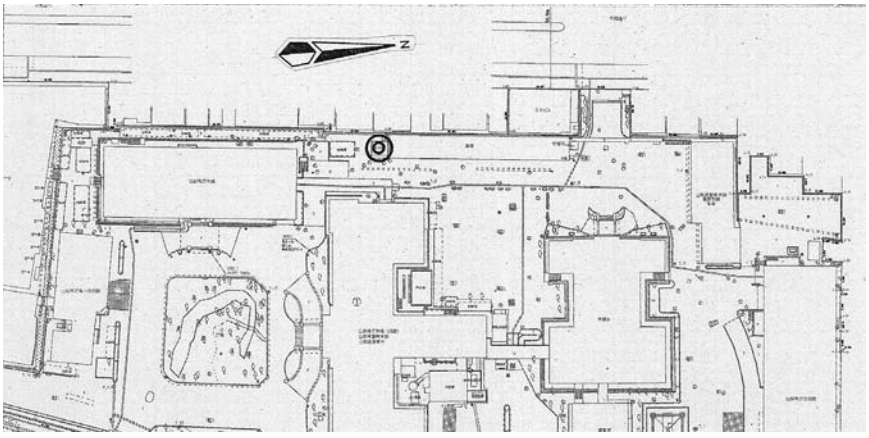
基礎は約 5.0 m四方の規模で、0.28 mの厚さで施工してあった。この部分に、カッターを入れ、重機により撤去作業を行った。

コンクリート基礎を除去すると基礎下部の砕石層がみられるが、今回の作業では掘削は行わないことから、砕石の厚さや地表面までの深さは不明である。

前述したとおり、基礎撤去のみであり掘削は行われず浅かったことから、遺構や遺物の確認には至らず、埋蔵文化財に関し、問題はみられなかった。



第１図　県庁構内ＡＴＭ基礎撤去事業位置図



第２図　立会調査位置図

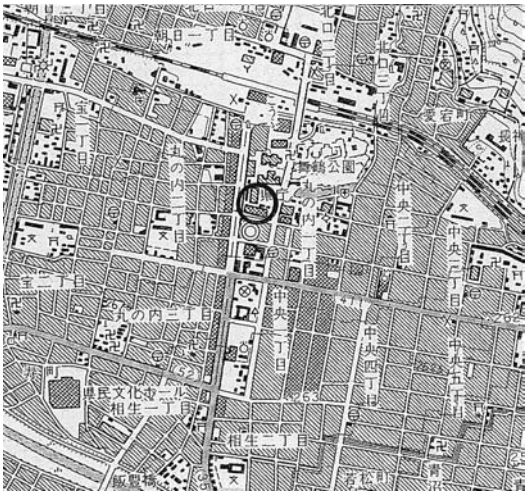
県庁 ATM 基礎撤去状況

31　県庁舎耐震化等（地中電線管撤去）事業　立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内 1-6-1（県庁周辺）地内	調査期間	平成 21（2009）年 7 月 22 日～ 7 月 27 日
担当者	高野玄明	調査面積	27.2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

県庁構内の別添図の箇所において、県庁耐震化整備により地中電線管の撤去作業が行われることになり、それぞれの箇所について掘削が行われるため、立会調査を実施することになった。



第１図　県庁舎耐震化等事業位置図

①地点：【県庁東側県道沿い歩道部分】（7 月 22 日）

地下 0.8 m程掘削し、地中電線管を確認し、地中電線の撤去を行った。立会調査の結果、既掘されている地中電線管の埋土は、砕石と埋設管直上には砂で埋設されており、既掘された断面や埋土には甲府城石垣等に関する遺構や、遺物は確認できなかった。

②地点：【県庁東側県道沿い歩道部分】（7 月 23 日）

①地点の継続作業であり、状況に変化は見られなかった。

③地点：【県庁南別館東側駐車場周辺】（7 月 25 日）

電線管の撤去作業のため幅約 2.0 mの半分の北側の掘削を、約 1.2 mの深さで行った。既掘された埋土は、①地点と同様であり、昨年度の試掘結果のような石垣の版築地盤などの検出には至っていない。

また、配電盤の撤去や南別館南東角の人力による掘削を行い、地中電線管の撤去も行われた。

④地点：【県庁南別館東側駐車場周辺】（7 月 26 日）

電線管の撤去作業のため幅約 2.0 mの半分の南側の掘削を、約 1.2 mの深さで行った。この箇所地中埋設管の埋土の中には、砕石に混じって 30㎝～ 50㎝大の礫が４点ほど確認されている。地中埋設管の年代が約 40 年程前の型式であることから当時の甲府城の石垣に関する石材（アゴ石）の可能性もある。

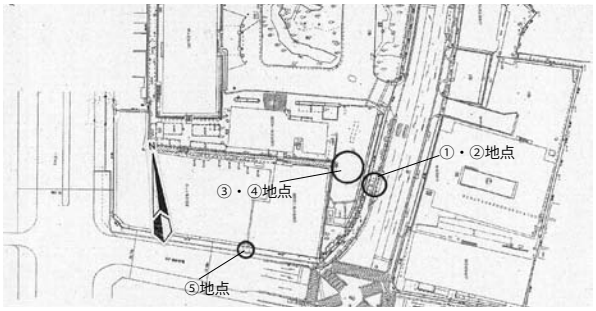
⑤地点【県民情報プラザ北東側の歩道部分】（7 月 27 日）

情報プラザ北東側の歩道部分の撤去作業である。　深さ 0.8 m程に地中電線管が見られる。同様に、既掘の範囲であり、また、ガス管やＮＴＴ等の地下埋設物が交差するなど、甲府城に関する遺構や遺物の確認はできていない。

〇まとめ

以上のように今回の立会調査は、既に埋設されている地中電線管（深さ 0.8 m～ 1.2 m）の撤去作業であり、すべてが既掘の範囲の中であった。

このことから、甲府城に関する遺構や遺物の確認はできなかったが、南別館東側駐車場より甲府城石垣に関する部材と思われる石材が埋め土の中から確認できた。これは、昨年度の試掘調査でも浅い部分で甲府城の石垣の一部が確認されていることから、県庁舎耐震化整備に関しては慎重な対応が望まれる。



第２図　立会調査位置図

地中電線管確認状況①・②地点

地中電線管確認状況
③・④地点

32　山梨リニア実験線(笛吹市道 512 号改良)建設事業　立会《笛吹市御坂町竹居地内》

所在地	笛吹市御坂町竹居 5025 外地内	調査期間	平成 21 年 9 月 14 日
担当者	吉岡弘樹・皆川賢司	調査面積	150㎡

調査経緯及び事業内容と結果

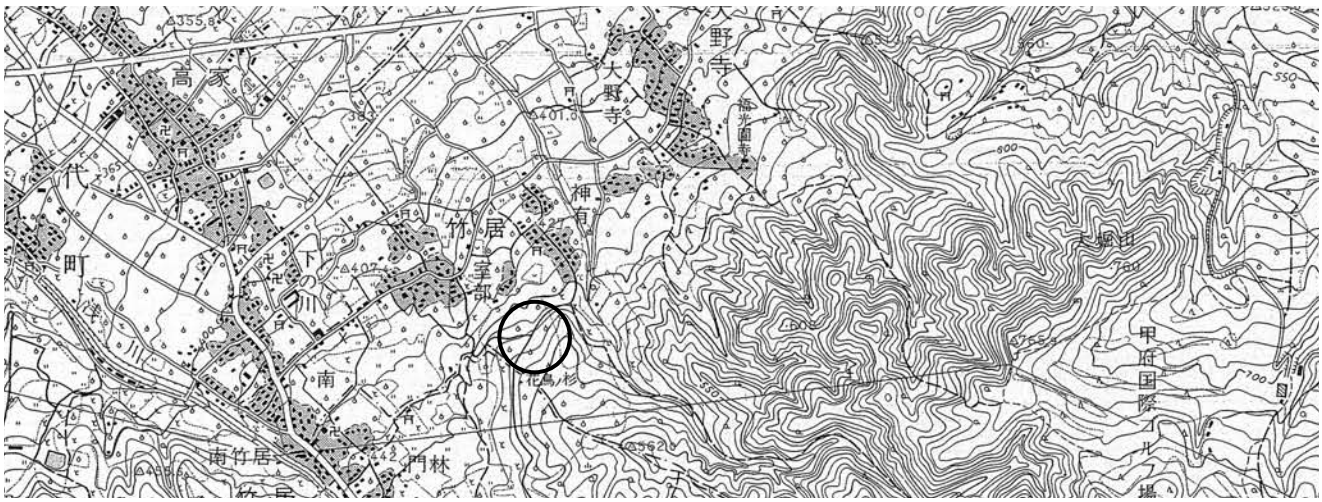
本事業は、山梨リニア実験線建設に伴う笛吹市道 512 号改良工事であり、既存の市道を約 180m に渡り拡幅するものである。

当地は南側上方に花鳥山遺跡が、また、北西下方には三光遺跡が存在する位置にある。また、この他にも近接して周知の埋蔵文化財包蔵地が点在しているため、事前協議に基づき平成 21 年 9 月 14 日(月)に立会調査が実施されることとなった。

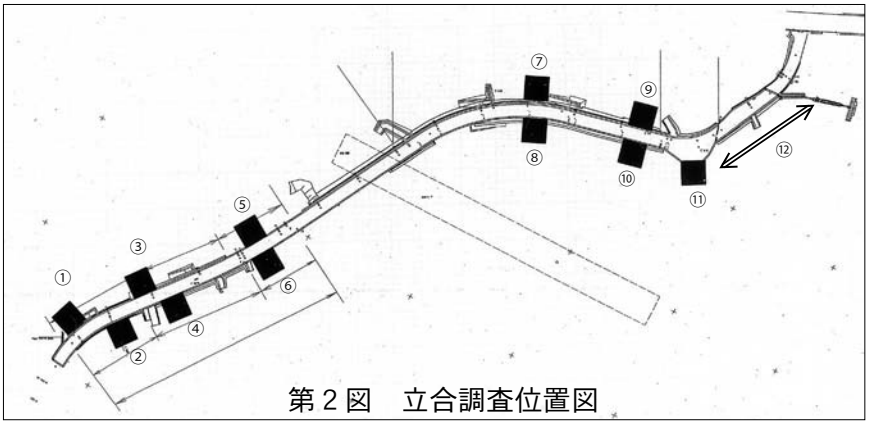
立会調査は北方に向かい急峻に下る地形の等高線に沿うように造成された既存の市道を拡幅する工事行程に合わせて拡幅部分の山側と谷側が対になるように、基本的に幅約 1m、長さ約 2 ～ 3m 程の地点を重機によって掘削した後に精査を行い、その土層断面を観察した。また、既に切り土されている山側の土層についても部分的に観察を実施した。

その結果、第 1 号地点では、約 60㎝の表土層直下、暗茶褐色土層(約 30㎝)・暗黄褐色土層(約 20㎝)・淡黄褐色土層(約 30㎝)・黄褐色土層(地山層)と安定した層序が確認できた。また、第 2 ～ 6 号地点では約 20 ～ 40cm の表土下に非常にしまりの強い暗黄褐色粘質の地山層が検出された。第 7 ～ 11 号地点においても前者と同様に約 20 ～ 40㎝の表土層下に地山層(礫混じりの暗黄茶褐色層)が確認された。なお、全ての土層観察地点での遺構・遺物の検出は無かった。

さらに、第 11 号地点に隣接する第 12 地点では北方では小河川による大きな削平があり、遺構等の検出はみられなかった。



第 1 図　笛吹市道 512 号改良事業位置図



第 2 図　立合調査位置図

第 8 地点土層推積状況

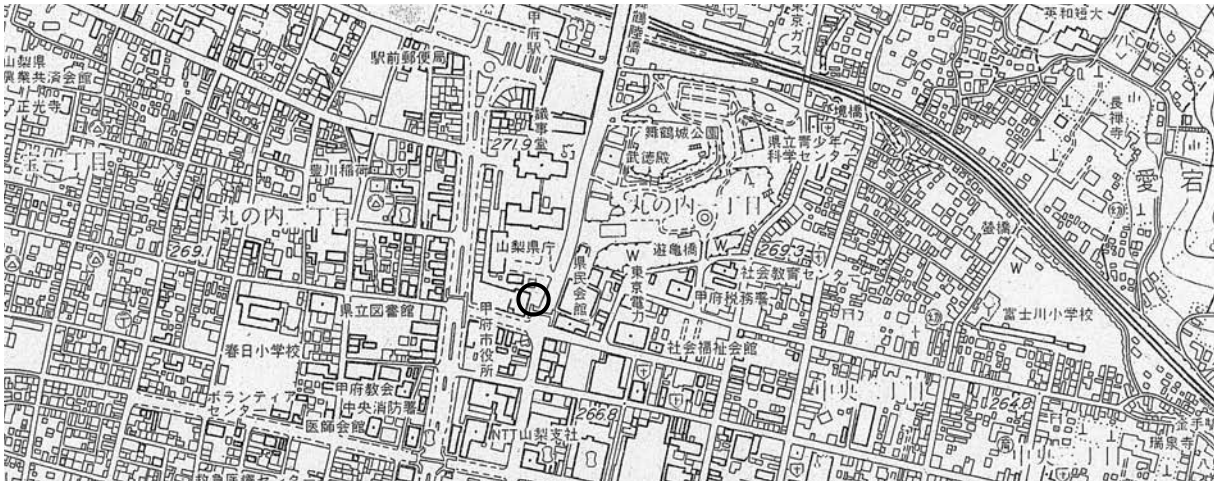
33　県庁構内電気高圧供給管新設事業　立会《甲府市丸の内地内》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成２１年10月７日
担当者	野代幸和　長田隆志	調査面積	2㎡

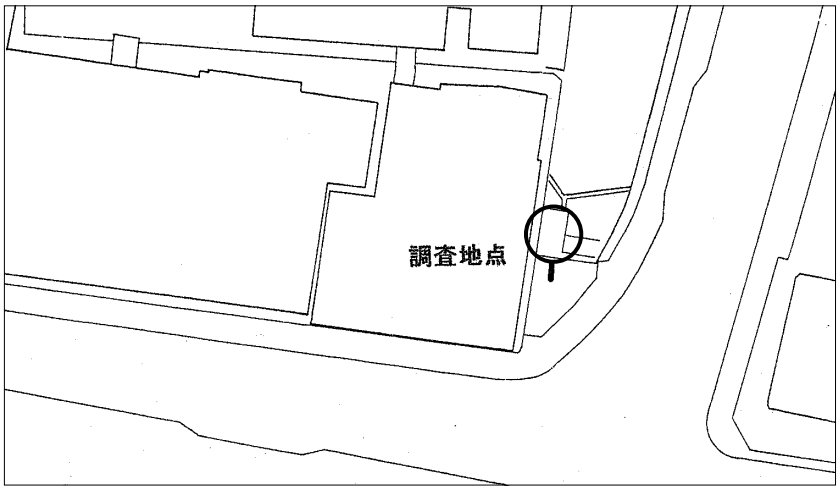
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受けて当センターで実施した。協議内容については､既存ハンドホールから地上に立ち上げる際の敷設作業時において調査を実施し、遺構発見時には現況のまま保存とすることを確認した。当該地点は周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の大手門脇の石垣内に位置している。本事業は電気埋設管の新敷設工事であり、長さ2500㎜、幅600㎜、掘削深度600㎜の範囲内での対応に終始したため地下遺構への影響はなかったが、過去の調査状況としては、スクランブル交差点付近において道路敷下1000㎜で堀の石垣が、また県庁構内の駐車場内では現況地盤面下500㎜で石垣の版築地盤と石材の抜き取り跡が発見されている。

調査の結果、すべて過去の開発による既掘の範囲であったことから、遺構･遺物については全く発見できなかった。



第１図　県庁構内電気高圧供給管新設事業位置図



第２図　調査地点位置図

調査地点

掘削状況

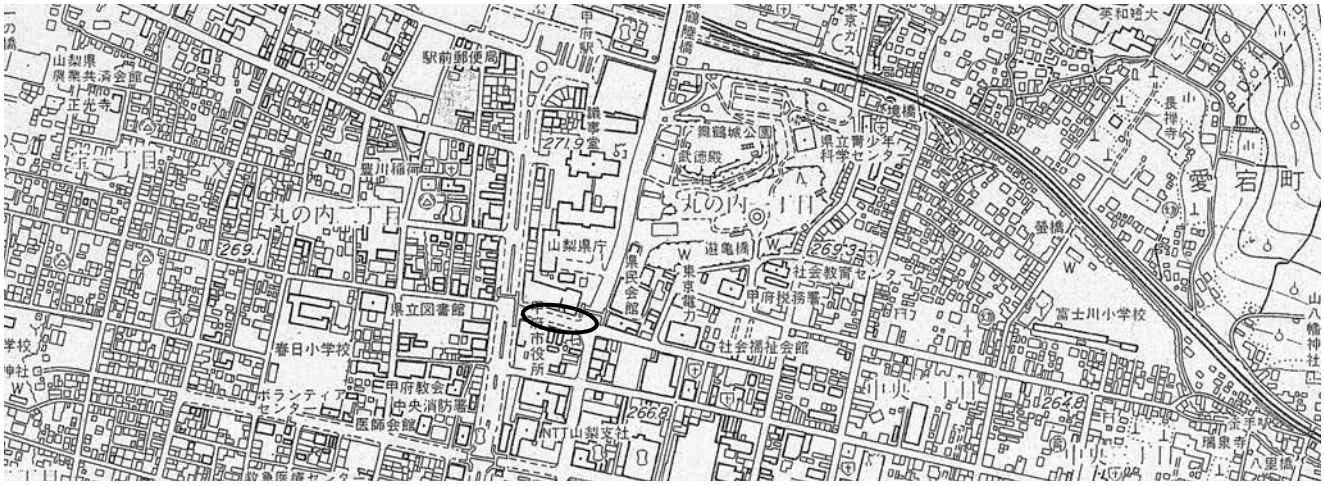
34　県庁周辺電気高圧供給管撤去ならびに新設事業　立会《甲府市丸の内地内》

所在地	甲府市丸の内1丁目地内	調査期間	平成 21 年 10 月 19 日～ 22 日
担当者	野代幸和　長田隆志	調査面積	15㎡

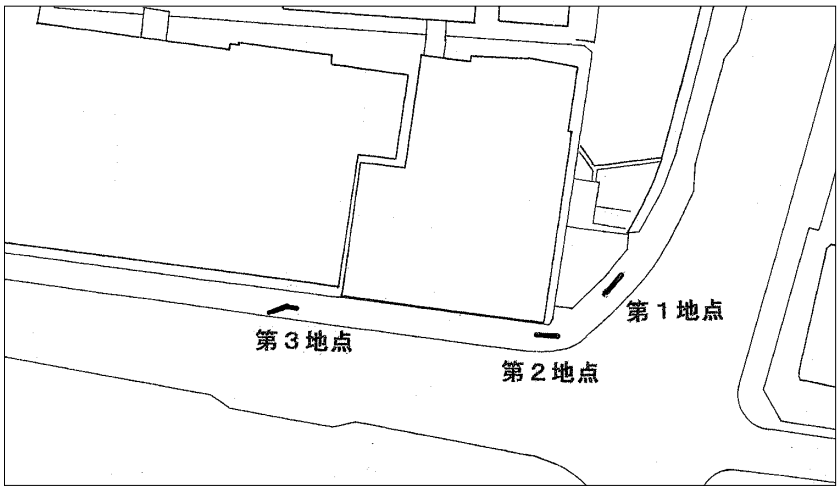
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受けてセンターで実施した。協議内容については､既存供給管の撤去ならびに新設の際に実施する掘削作業時において調査を実施し、遺構発見時には現況のまま保存することを確認した。当該地点は過去の調査実績から周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の堀に位置している。本事業は電気埋設管の敷設工事であり、一区画 5㎡程度の面積を三箇所、最大掘削深度 1200㎜の範囲内での対応であったが、電話・ガス等の配管が多数存在する既掘の範囲であったことから地下遺構への影響は認められなかった。過去の調査状況としては、スクランブル交差点中心部において道路敷下 1700㎜で堀が市教委の調査で、また情報プラザ南西部の道路敷直下で安山岩の岩盤が県教委の調査で確認されている。

調査の結果、すべて過去の開発による既掘の範囲で砂を主とする埋土であったことから、遺構・遺物については全く発見できなかった。



第１図　県庁周辺電気高圧供給管撤去ならびに新設事業位置図



第２図　調査地点位置図

調査地点

第二地点掘削状況

35　平等川基幹河川改修事業　立会《堤防遺跡推定地：七沢の渡し場》

所在地	甲府市七沢町・西高橋町地内	調査期間	平成 21 年 11 月 12 日
担当者	高野玄明	調査面積	16㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平等川河川改修事業については、平成 19 年度より旧春日居町をはじめとし、「堤防遺跡」や「七沢の渡し場」等が想定されるため試掘調査を行ってきた。

今回の立会調査は、今年度の 6 月に試掘調査を実施した箇所の上流及び下流について試掘調査実施が難しい箇所などについて、工事着工に伴い立会調査を実施することとなった。

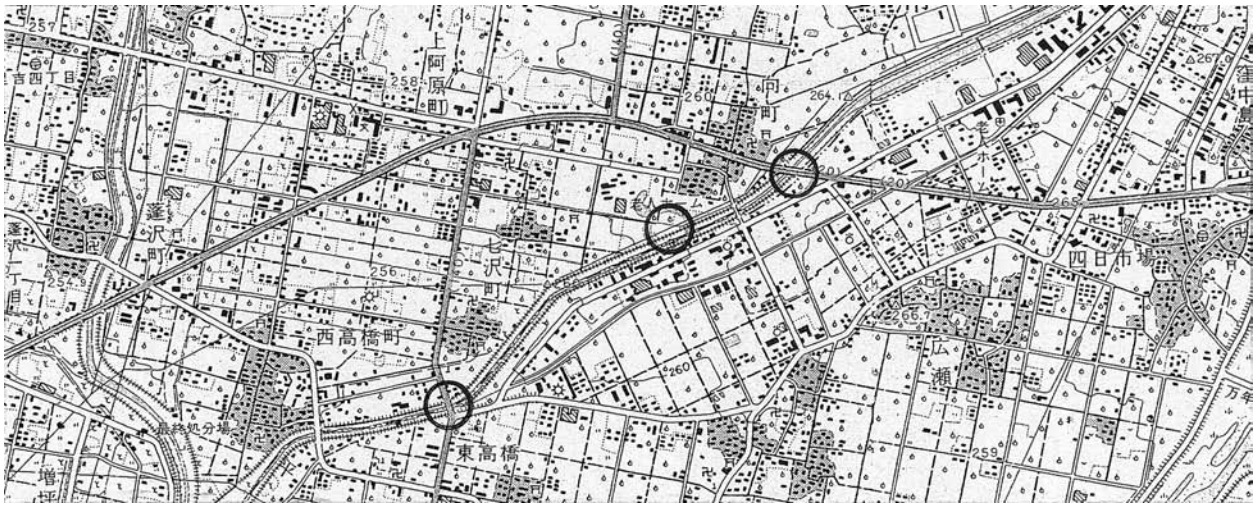
立会調査は、別添図の 4 箇所に重機によりタテ 2.0 m×ヨコ 2.0 mの掘削をお願いし土層の確認及び遺構・遺物の確認を実施した。

調査の結果、調査対象地の土層断面は河川の自然堆積による砂質土が主体となり、深さ 1.5 m以降は青褐色砂層に礫の混入が見られ、その下部約 2.0 m程になると礫層が確認された。

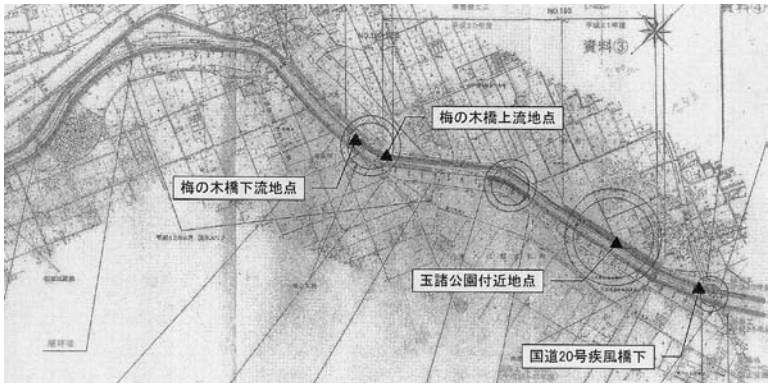
6 月の試掘調査時も地下水が非常に高い位置から出水している状況であった。今回のいずれの調査地からも同様に青褐色砂層から出水し、トレンチの崩壊が激しく、トレンチ内部の精査を行うことができなかったものの、堤防等が構築された痕跡はいずれのトレンチからも確認できなかった。　今回の調査の結果、地表下 2.0 m～ 2.6 m程度掘り下げを行い調査を行ったが、調査対象地における堤防施設に関する遺構や遺物の検出はできなかった。

このため、今回の調査対象地における埋蔵文化財の保護の対応は必要ない。

しかし、今後も平等川河川改修事業は継続して行われることから、引き続き立会調査を実施していく。



第 1 図　平等川基幹河川改修事業位置図



第 2 図　立合調査位置図

土層推積確認状況

36　県立笛吹高等学校建設事業　立会《石和高校周辺遺跡》

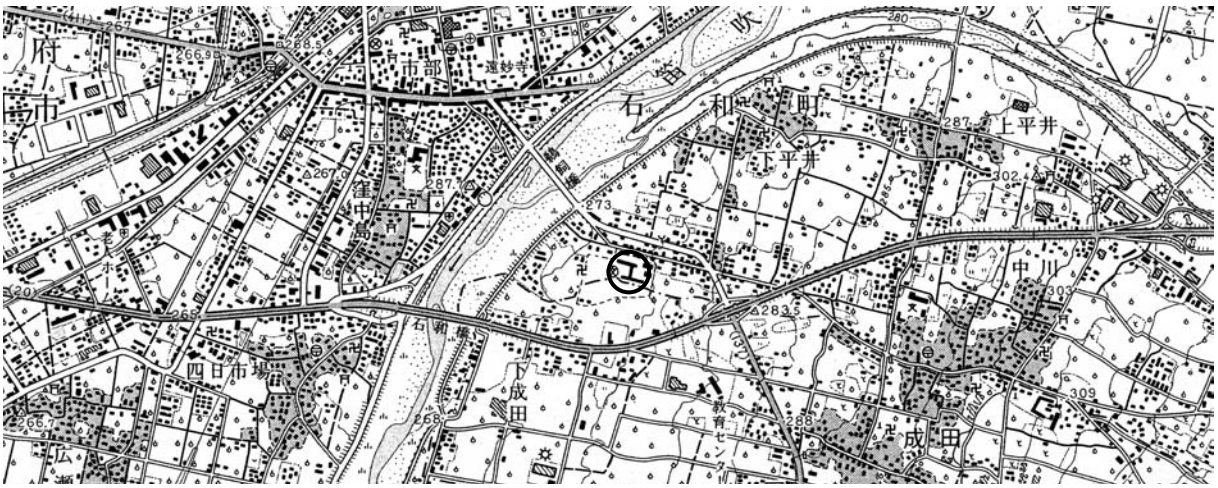
所在地	笛吹市石和町市部 3 地内	調査期間	平成 21 年 12 月 11 日、17 日、25 日
担当者	保坂和博	調査面積	230㎡

調査経緯及び事業内容と結果

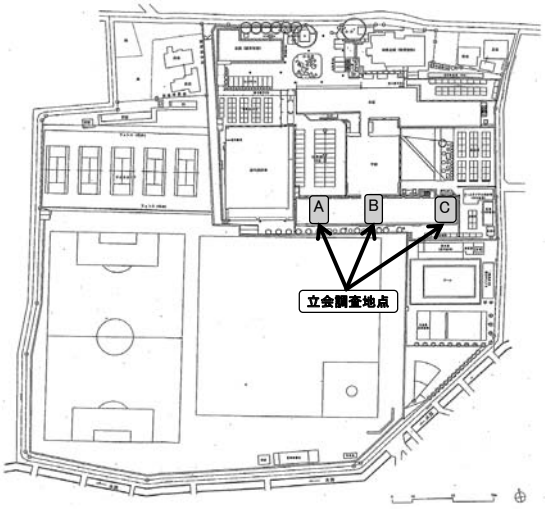
今回の立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である石和高校周辺遺跡の範囲内における県立笛吹高等学校建設に先立つ旧県立石和高等学校特別教室棟下部解体撤去（長さ 98.8 m×幅 9.8 m範囲の校舎基礎コンクリート撤去）事業に伴い実施された。調査は、工事工程に合わせ第 1 日目（12 月 11 日）に建物西端（A:№21 地点）、第 2 日目（12 月 17 日）に建物中央（B:№13 地点）、第 3 日目（12 月 25 日）に建物東端（C:№1 地点）の 3 回に分け、遺構・遺物確認と土層観察を行った。各地点における土層堆積状況は、約 50㎝の表土（埋土）下に約 180㎝の埋土が確認され、それ以下では自然堆積層となる砂礫が湧水を伴い確認された。

立会調査の結果、建物下部建設時に表土下約 230㎝の自然砂礫層まで掘り下げ基礎コンクリートを布設し、埋土された状況が見られ、遺構や遺物は全く遺存せず、遺跡はないと考えられたため、今回の立会地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

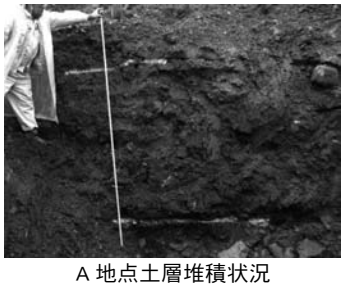
なお、12 月 24 日に行われた総務部営繕課、教育委員会学校施設課、学術文化財課と当センターとの協議により、駐輪場基礎コンクリート撤去時の立会調査と本館、中館、屋内運動場建設で新たに掘削される場所については、改めて試掘調査を実施する必要があることが確認された。



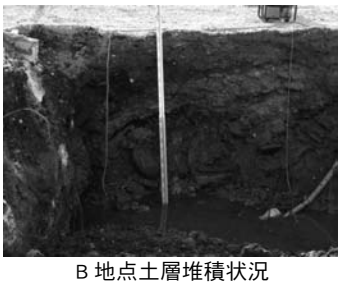
第 1 図　県立笛吹高等学校建設事業位置図



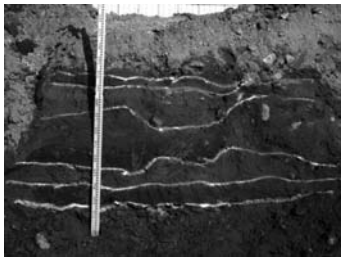
第 2 図　立合調査位置図



A 地点土層堆積状況



B 地点土層堆積状況



C 地点土層堆積状況

基礎コンクリート撤去作業状況

37　山梨リニア実験線建設事業　踏査《笛吹市八代町地内》

所在地	笛吹市八代町米倉 2532-2、2086-52 外地内	調査期間	平成 21 年 7 月 29 日
担当者	保坂和博	調査面積	

調査経緯及び事業内容と結果

平成 21 年 4 月 27 日、6 月 4 日の現地協議に基づき、笛吹市八代町米倉地内（①－ 1 地点、①－ 2 地点）における現地踏査を実施した。

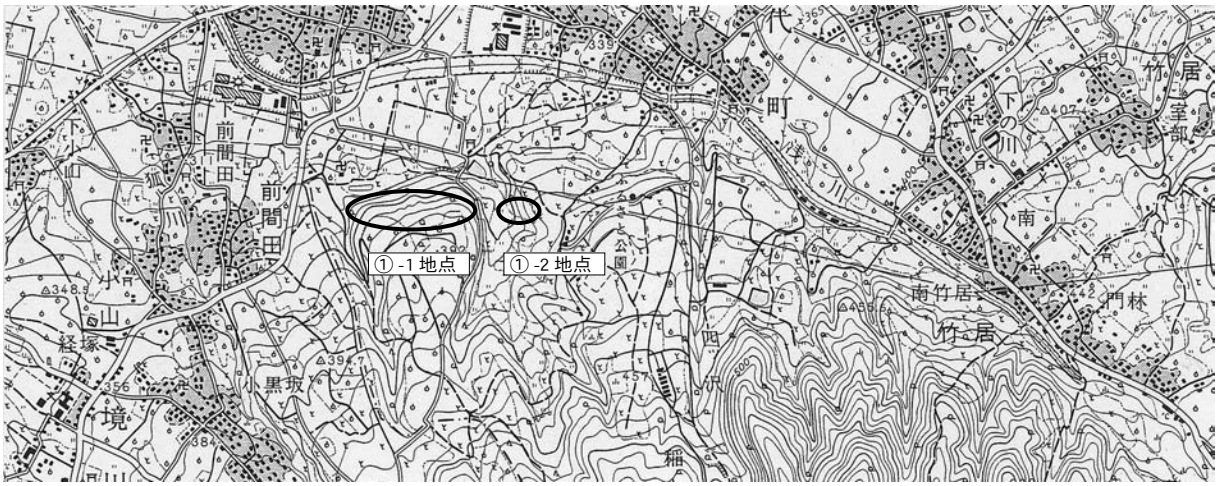
踏査方法は、対象地がブッシュで覆われているため現地で確認された工事用境界杭（路盤境界杭）に沿って地形的環境等に基づき埋蔵文化財の確認を行った。

①－ 1 地点は、北向急傾斜地かつ高低差の著しい等高線の入り組んだ地形であり、また、遺物等の表面採集は確認されなかった。

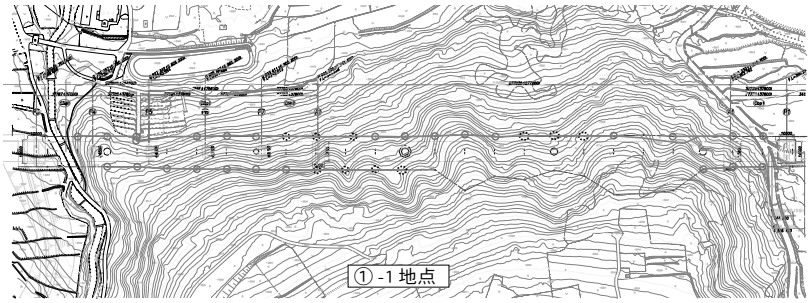
①－ 2 地点は、西向急傾斜地であり、また遺物等の表面採集は確認されなかった。

踏査の結果、両地点においては地形的環境および遺物表採状況から遺跡はないものと判断される。なお、隣接地におけるこれまでの試掘結果および歴史的環境からも遺跡はないものと判断される。

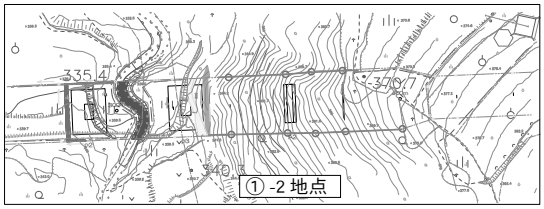
以上のことから、今回の踏査対象地範囲内に埋蔵文化財は確認されなかったため、工事を行うに当たり支障はないものと判断される。



第 1 図　山梨リニア実験線建設事業位置図



現地踏査写真（①－ 1 地点）



第 2 図　現地踏査位置図

現地踏査写真 1（①－ 2 地点）

現地踏査写真 2（①－ 2 地点）

38　山梨リニア実験線建設事業　踏査《笛吹市御坂町竹居地内、上黒駒地内》

所在地	笛吹市御坂町竹居 3072-2 地内、御坂町上黒駒 6205-16 地内	調査期間	平成 21 年 10 月 6 日
担当者	保坂和博	調査面積	

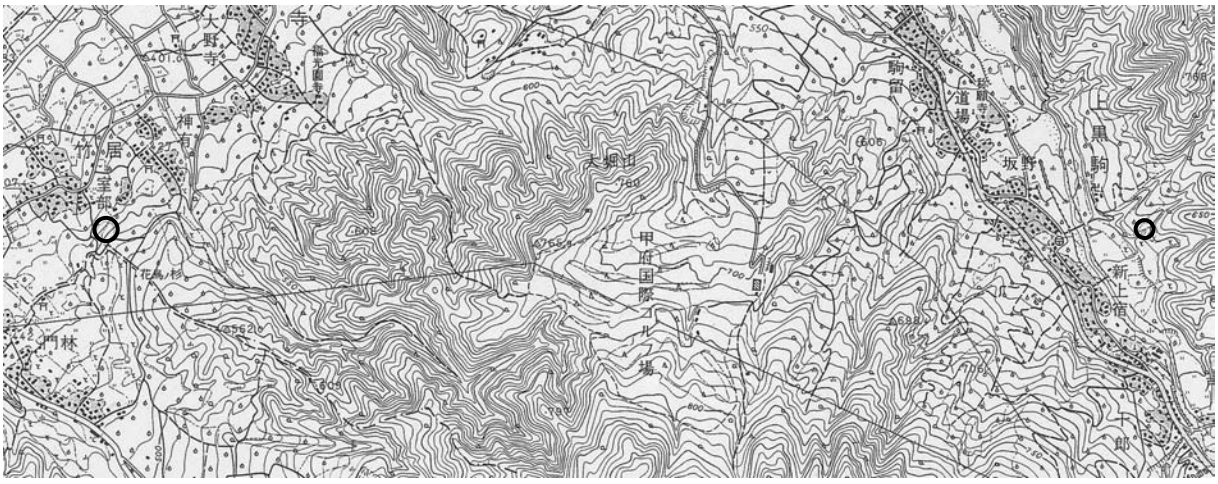
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨リニア実験線建設事業に先立ち、平成 21 年 9 月 16 日に行われた鉄道・運輸機構と学術文化財課との協議結果に基づき、笛吹市御坂町竹居地内（J 地点）と同町上黒駒地内（N 地点、②地点）において鉄道・運輸機構と当センターで現地踏査を実施した。

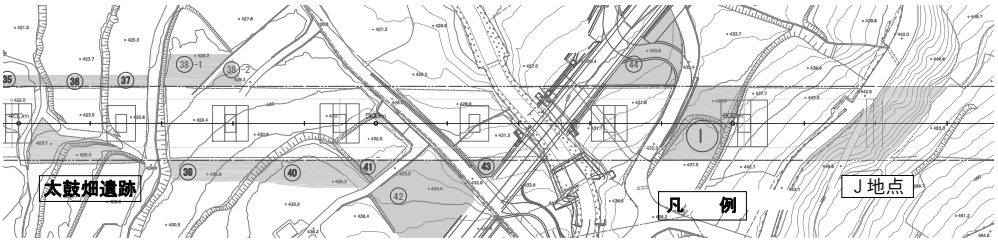
踏査方法は、対象地がブッシュで覆われているため現地で確認された工事用杭（中心杭・路盤境界杭）に沿って地形的環境等に基づき埋蔵文化財の確認を行った。

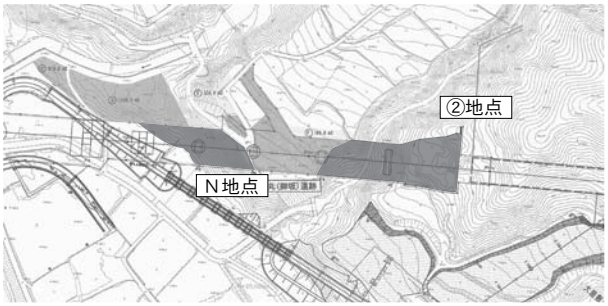
J 地点は、西向急傾斜地であり、遺物等の表面採集は確認されなかった。N 地点および②地点は、昨年度本調査を実施した御坂中丸遺跡に隣接する。N 地点は南西向急傾斜地、②地点は河岸段丘の急傾斜地と元来の緩斜面を削平し、土地利用したと考えられる平坦地が確認されたが、いずれも遺物等の表面採集は確認されなかった。

踏査の結果、地形的環境および遺物表採状況から遺跡はないものと判断されたため、今回の踏査対象地範囲内において工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第 1 図　山梨リニア実験線建設事業位置図（S =1/30000）





第 2 図　現地踏査位置図

J 地点

N 地点

②地点

報 告 書 抄 録

ふ り が な	やまなしけんないぶんぷちょうさほうこくしょ
書　　名	山梨県内分布調査報告書（平成 21 年）
シ リ ー ズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 266 集
発 行 者	山梨県教育委員会
編 集 者 名	保坂和博
編 集 機 関	山梨県埋蔵文化財センター
所 在 地	山梨県甲府市下曽根町 923
連 絡 先	TEL　055-266-3016　Fax　055-266-3882
発 行 日	平成 22 年（2010）3 月 25 日

事　　業　　名	所　　在　　地
県立都留高等学校トレーニングセンター・屋内練習場建設事業	大月市大月２－ 11 － 20 地内
都留バイパス建設事業	都留市井倉字美通 285 外地内
甲府地方検察庁新営庁舎建設事業	甲府市中央１－ 11 外地内
専門学校農業大学校建替事業	北杜市長坂町長坂上条 3251 外地内
風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業	甲府市下向山地内
中部横断自動車道（南部区間）建設事業	南巨摩郡南部町本郷字上大神 366 外地内
山梨リニア実験線（境川土捨場造成）事業	笛吹市境川町藤岱字御所山 4073 外地内
平等川基幹河川改修事業	甲府市向町 655 －４外地内
中部横断自動車道（醍醐トンネル）建設事業	南巨摩郡身延町大字一色字和田 5324 外地内
城東Ⅱ期バイパス建設事業	甲府市砂田町５－３外地内
県立笛吹高等学校建設事業	笛吹市石和町市部３地内
県立中央高等学校改築事業	甲府市飯田５－６－２外地内
中部横断道自動車道建設事業	南巨摩郡身延町大字下田原字広反歩 1539 －１外地内
国道 358 号（甲府精進湖線）拡幅事業	甲府市中畑町字中町 253 －１外地内
山梨リニア実験線（資材置場）建設事業	笛吹市御坂町上黒駒字六ッ長 3422 －１外地内
山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業	笛吹市御坂町竹居字太鼓畑 3185 －１外地内
間門川河川改修事業	甲府市下曽根町字一丁田 1526 －１外地内
中部横断道自動車道（南部区間）建設事業	南巨摩郡南部町本郷字東 429 地内
ガス管リフレッシュ事業	甲府市丸の内１丁目地内
御座田三番堤補修事業	韮崎市龍岡町地内
風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業	甲府市下曽根町字岩清水 899 外地内
甲府駅北口交番解体事業	甲府市北口２丁目地内
入山沢通常砂防建設事業	上野原市秋山字金山地内
県庁構内水道管敷設事業	甲府市丸の内１丁目地内
流域下水道敷設事業	南アルプス市鏡中條地内
県庁舎耐震化等事業	甲府市丸の内１－６－１
風土記の丘・曽根丘陵公園整備（方形周溝墓広場展望台改築）事業	甲府市下向山地内
県立笛吹高等学校吸水管敷設事業	笛吹市石和町市部３地内
流域下水道敷設事業	富士吉田市新倉地内
県庁構内 ATM 基礎撤去事業	甲府市丸の内１丁目地内
県庁舎耐震化等（地中電線管撤去）事業	甲府市丸の内１－６－１地内
山梨リニア実験線（笛吹市道 512 号改良）建設事業	笛吹市御坂町竹居 5025 外地内
県庁構内電気高圧供給管新設事業	甲府市丸の内１丁目地内
県庁周辺電気高圧供給管撤去ならびに新設事業	甲府市丸の内１丁目地内
平等川基幹河川改修事業	甲府市七沢町・西高橋町地内
山梨リニア実験線建設（笛吹市八代町地内）事業	笛吹市八代町米倉地内
山梨リニア実験線建設（笛吹市御坂町地内）事業	笛吹市御坂町上黒駒 6205 － 16 外地内

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 266 集

山梨県内分布調査報告書

（平成 21 年）

印刷日　2010（平成 22）年 3 月 15 日
発行日　2010（平成 22）年 3 月 25 日
編集　山梨県埋蔵文化財センター
〒 400 － 1508
山梨県甲府市下曽根町 923
Ｔｅｌ　055-266-3016
Ｆａｘ　055-266-3882
発 行　山梨県教育委員会
印刷所　株式会社 峡南堂印刷所